

テートクの決断

# 一億特攻



18禁

蛸壺屋

艦娘太平洋戦争 第8弾

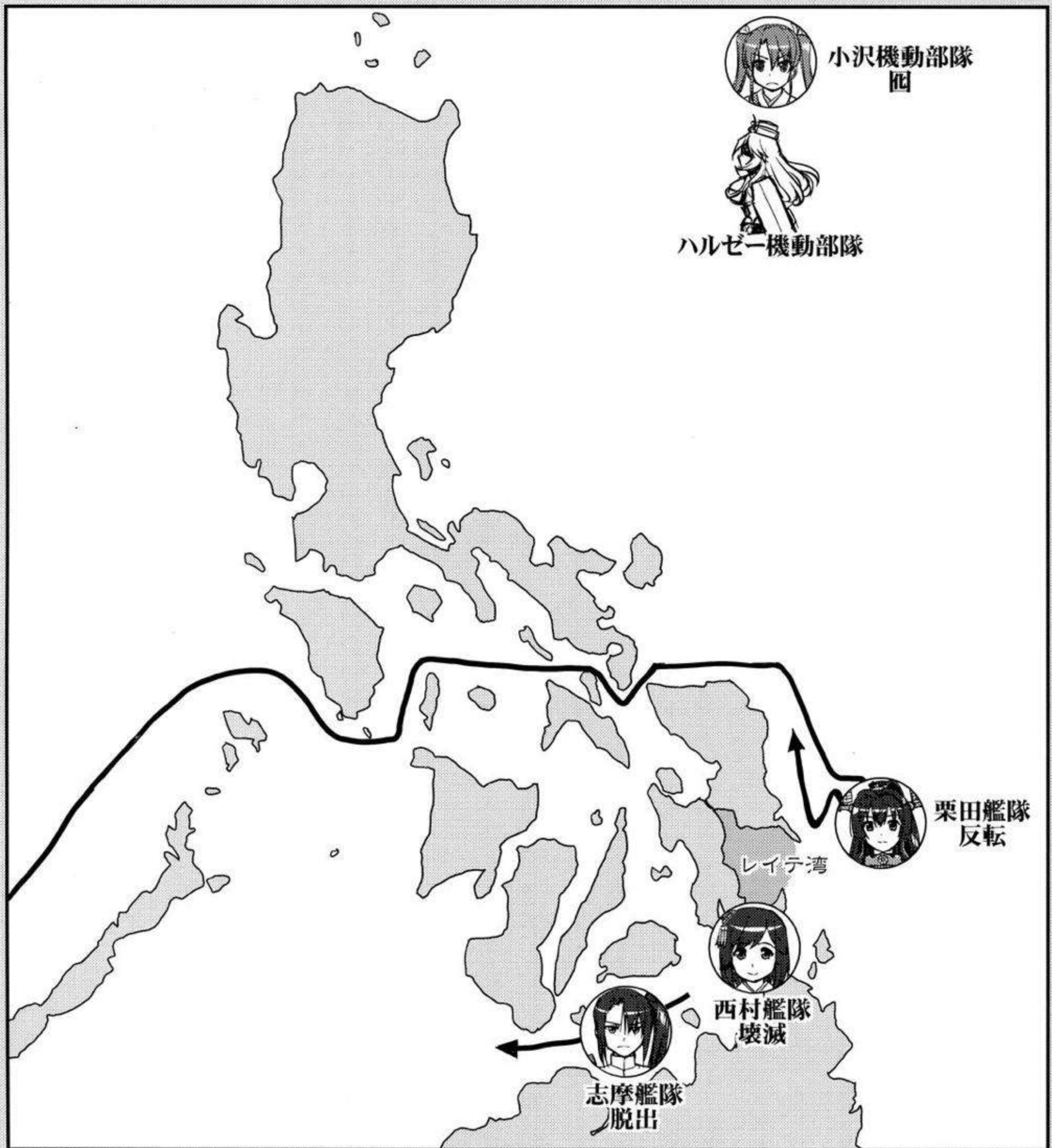
テートクの決断

# 一億特攻



**TAKOTUBOYA**

# 1944年10月25日



栗田艦隊はレイテ湾の目の前で  
突入を止めて反転した

10月25日 深夜  
レイテ灣を  
目の前に反転した  
連合艦隊の各部隊は

♪朝だ  
夜明けだー  
潮の息吹ー

うんと吸い込む  
あかがね色のー  
胸に若さの  
みなぎる誇りー

それぞれ  
来たルートを戻り  
元の泊地へ  
向かつていた

とす

突入部隊のうち  
最もレイテ灣まで  
接近した『時雨』は

海一の娘の  
艦隊勤務  
月火水木金ー

西村艦隊(第二部隊)  
唯一の生き残りとなり  
1人でコロン灣泊地を目指した

23時1分  
損傷で小沢艦隊から  
脱落した『多摩』は  
単艦で北へ逃れていたが

にやあ

台湾東方で  
米潜『シヤラヤ』に発見され  
3本の魚雷を受け沈没した

主力の栗田艦隊は21時35分に  
サンベルナルジノ海峡を抜け  
西進を続けていた

急げ!  
夜の内に  
敵制空権から  
離れるんだ

機動部隊を叩いたので  
空襲も往路ほど  
激しくはないはず

『野分』は  
『筑摩』救援のため  
栗田艦隊から  
2時間遅れて  
海峡へ到着し

ようやく戻ってきた  
『ルゼー』の34任務部隊に発見され  
通過する前に集中砲火で撃沈された



暗い内に  
連合艦隊が  
脱出を計る中



流れに逆行して  
レイテ島へ  
向かっている  
船団があった

『青葉』の大破で  
海戦に参加できず  
輸送艦5隻の護衛に回った  
16戦隊『鬼怒』『浦波』

第2艦隊 (栗田)

16戦隊

第2艦隊 (西村)

第5艦隊 (志摩)

3000

陸軍大本営は海軍が台湾で上げた  
大戦果を信じていた

これまで海軍は参謀本部には  
損害や戦果を隠さなかった  
しかしこの決戦の局面になって  
初めて完全な隠蔽を行った

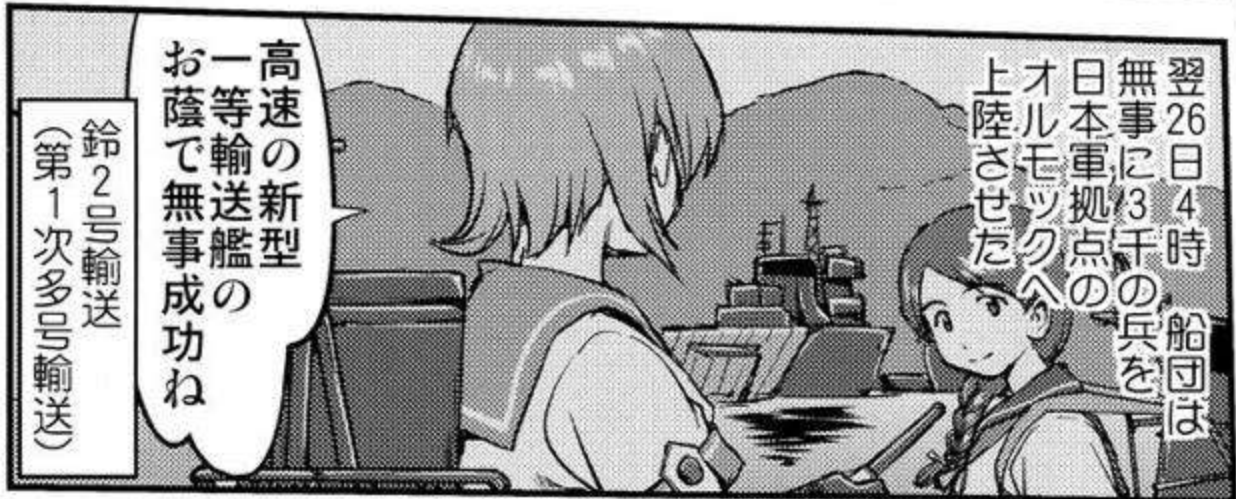
米軍上陸時兵力  
14方面軍  
直轄地  
13万

そのため陸軍は  
すでに米軍が上陸し  
内陸進行中の今になって

35軍  
担当地域  
11万

(うち2万レイテ島)

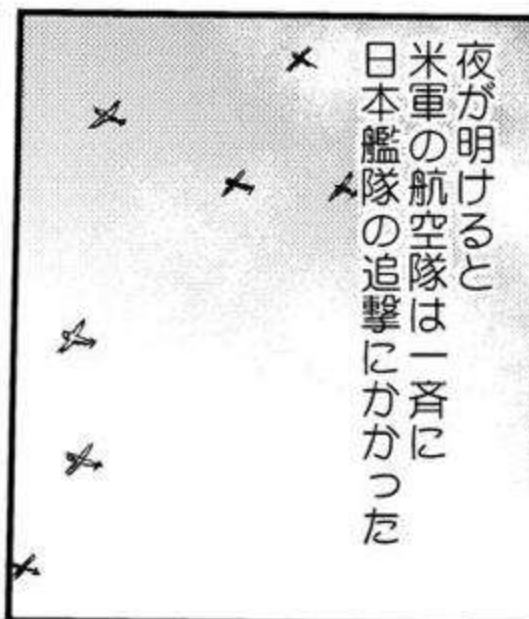
フィリピン南部に  
分散配備している35軍の兵力と  
追加の決戦兵力をレイテ島へ送る  
『多号輸送作戦』を開始した



翌26日4時 船団は  
無事に3千の兵を  
日本軍拠点の  
オルモックへ  
上陸させた

高速の新型  
一等輸送艦の  
お蔭で無事成功ね

鈴2号輸送  
(第1次多号輸送)



夜が明けると  
米軍の航空隊は一斉に  
日本艦隊の追撃にかかった

南のスルー海でも  
損傷で本隊から遅れている  
『阿武隈』と護衛の『潮』を  
モロタイ島の『米第5航空軍』  
B24爆撃機30が襲った

阿武隈さん  
敵機です



あゝあ  
こんな状況だけは  
避けたかったのに...



8時  
ハルゼーの機動部隊は  
西へ脱出を計る栗田艦隊を  
発見し攻撃を開始した

数は  
多くないけど  
しつこい!

二度の空襲で  
損傷した『能代』と『早霜』  
が落伍し

『能代』は三度目の空襲で  
11時30分に沈没した



潮  
最後に一つだけ  
聞いておきたい  
事があるんだけど

ええ?  
最後って  
何ですか!?



何食べたろ  
そんなに胸が  
大っきくなるの?

な...  
何言つて  
るんですか  
こんな時に!

知りま  
せんよ!



不知火  
戻ったばかりで悪いが  
食べたら鬼怒と浦波の  
救助へ行ってくれ

ハイ  
分かりました

何だ！  
ほとんど  
残してる  
じゃないか！

あ…いえ  
大丈夫です

あまり  
食欲がなくて



いいか不知火！  
ニューギニアが  
本当に大変なのは  
私も聞いてる

だからって  
お前が食事を  
我慢しても何の  
解決にもならん！

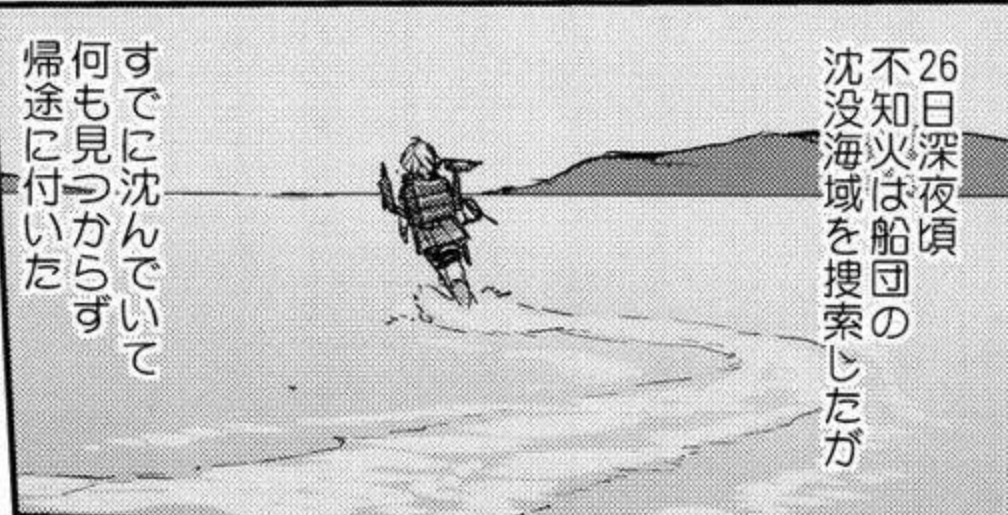
むしろ  
しっかり食べて  
任務をこなすことが  
前線の兵のため  
にもなるんだ

艦娘は余計なことは  
考えず命令を  
実行すればそれでいい！

ハイ  
分かっています



クソ  
真面目な奴だ  
分かっている  
だろうな…



26日深夜頃  
不知火は船団の  
沈没海域を捜索したが

すでに沈んでいて  
何も見つからず  
帰途に付いた



27日  
日が明けると米空母  
第4群デヴィンソン隊の  
エンタープライズが

ワロン湾へ戻る  
不知火を発見した



機動部隊に  
見つかった…

これは  
罰だ

アメリカと戦争したら  
最後はこうなることは  
分かってた



なのにな  
命を張ってまで  
反対しなかった

ここで死ぬ  
くらいなら

もっと前に  
やれることが  
あったんじゃないか





今度は…

不知火か

早霜は座礁したまま  
放置され  
誰にも気づかれず  
息を引き取った

『レイテ沖海戦』は  
この不知火と早霜の  
沈没までが  
区切りとされる

レイテ沖海戦

第一航空艦隊司令部

一方、25日のマニラでは  
大西瀧次郎中将が固唾をのんで  
神風特攻隊の報告を  
待っていた

遠慮は無用だ  
今後の作戦に  
影響するので正確に  
見た通りのことを  
言ってくれ

強気で作戦を  
進めた大西だが最後まで  
一つの疑問だけは残り続けた

人は命令で  
死の瞬間まで理性的に  
操縦桿を保てるのか？

だが同僚の体当りを目の当たりにして  
興奮した護衛機からの報告は  
大西を感動に震えさせる  
ものだった

空母1に2機命中撃沈確実  
空母1に1機命中大火災  
巡洋艦1に1機命中轟沈  
間違いありません！

これで一航艦を使い果たした大西は  
二航艦の福留中将に詰め寄った

特攻以外  
効果が無いことは  
事実で証明された

この重大な時に  
基地航空隊が  
無為に過ごしては  
全員切腹に価する！  
決断すべきと思う

福留は通常攻撃に  
こだわったが最後には  
編入される航空隊から  
特攻隊を編成することを承諾した

一航艦と二航艦は合併し  
『第一連合基地航空部隊』となった

翌26日、特攻の戦果は及川総長に  
よって天皇に奏上された

そのようにまで  
せねばならなかったか

しかし  
よくやった

天皇の言葉に非難も  
感じた大西は動揺したが  
隊員の無念への義侠心  
から特攻を全軍が続ける  
作戦として軍令部へ提出した

今後  
特攻への批判は一切許さん  
批判した者は誰だろうと  
俺が叩つ斬つてやる！

10月28日、21時30分  
栗田艦隊は往路で雷撃  
を受けたパラワン水道  
を迂回しようやく  
ブルネイへ帰投した

第2艦隊  
(栗田)



39隻で出発して  
戻ったのはたった  
17隻デスカ

そうか…  
扶桑と山城は  
突入したか

しかし  
大戦果です

犠牲に見合う  
価値はありました



10月27日  
大本営発表が行われた

総合戦果

- 撃沈 航空母艦8隻
- 巡洋艦3隻
- 駆逐艦2隻
- 輸送船4隻
- 撃破 航空母艦7隻
- 戦艦1隻
- 巡洋艦2隻
- 撃墜 約500機

これを『比島沖海戦』とす

台湾沖航空戦に続き  
再び米機動部隊を葬り  
去ったという発表だった



軍令部は大戦果を祝い  
栗田提督を名将と讃えた  
そして陸軍のレイテ決戦輸送  
『多号作戦』の全面支援に入った

レイテ沖海戦の  
実態が判明するのは  
戦後になってからである

曖昧な戦果に対し確実な  
損害は恐るべきものだった

沈没

- 戦艦3
- 武蔵 扶桑 山城
- 空母4
- 瑞鶴 瑞鳳 千歳 千代田
- 重巡6
- 愛宕 摩耶 鳥海 筑摩 鈴谷
- 最上
- 軽巡4
- 阿武隈 能代 鬼怒 多摩
- 駆逐艦11
- 野分 若葉 浦波 藤波 秋月
- 早霜 朝雲 山雲 満潮 初月
- 不知火

損傷

- 重巡5
- 青葉 高雄 妙高 熊野 那智
- 駆逐艦2
- 浜風 初霜

事実上の壊滅であり  
水上部隊はこれ以後  
作戦遂行能力を失った

10月15日 竣工  
正規空母『葛城』  
搭載 新型機57

さあて！  
雲龍姉エ 天城姉エ  
とさええず何すれば？

何も

空母の航空隊は  
D練度だけ残して  
全部『K攻撃部隊』として  
比島に行っちゃったし

内地の燃料は節約しないと  
いけないから本当に何も

※D練度：『要錬成(作戦行動不可)』

後  
ミッドウェー  
に取掛かった  
空母の製造も  
次々と中止された

11月9日  
『阿蘇』  
60%で中止  
『生駒』  
60%で中止

45年 4月1日  
『笠置』  
84%で中止

一方、アメリカは  
エセックス級が毎月の  
ように竣工を続けていた

9月 12隻目  
『シヤングリラ(C.V.38)』

10月 13隻目  
『ランドルフ(C.V.15)』

11月 14隻目  
『ホノム・リシャル(C.V.31)』



日本がマリアナで敗れた44年6月からの数ヶ月は世界大戦の決着が一気に付いた時期だった

6/23 『バグラチオン作戦』  
125万のソ連軍がドイツ中央軍集団の25個師団を14日で粉砕。東部の主力は突然地図から消滅した

6/6 『オーバーロード作戦』  
いわゆる史上最大の作戦。145万の連合軍がノルマンディへ上陸した後、約1ヶ月の戦いで西部の戦力50万を壊滅させた

8/15~25 パリ開放

欧州でもドイツ軍は東西で140万を失う。決定的敗北を喫し戦争は9月で終わるかと思われたがヒトラーは戦いを継続した

チャーチルは欧州の戦いの行方が見えたので

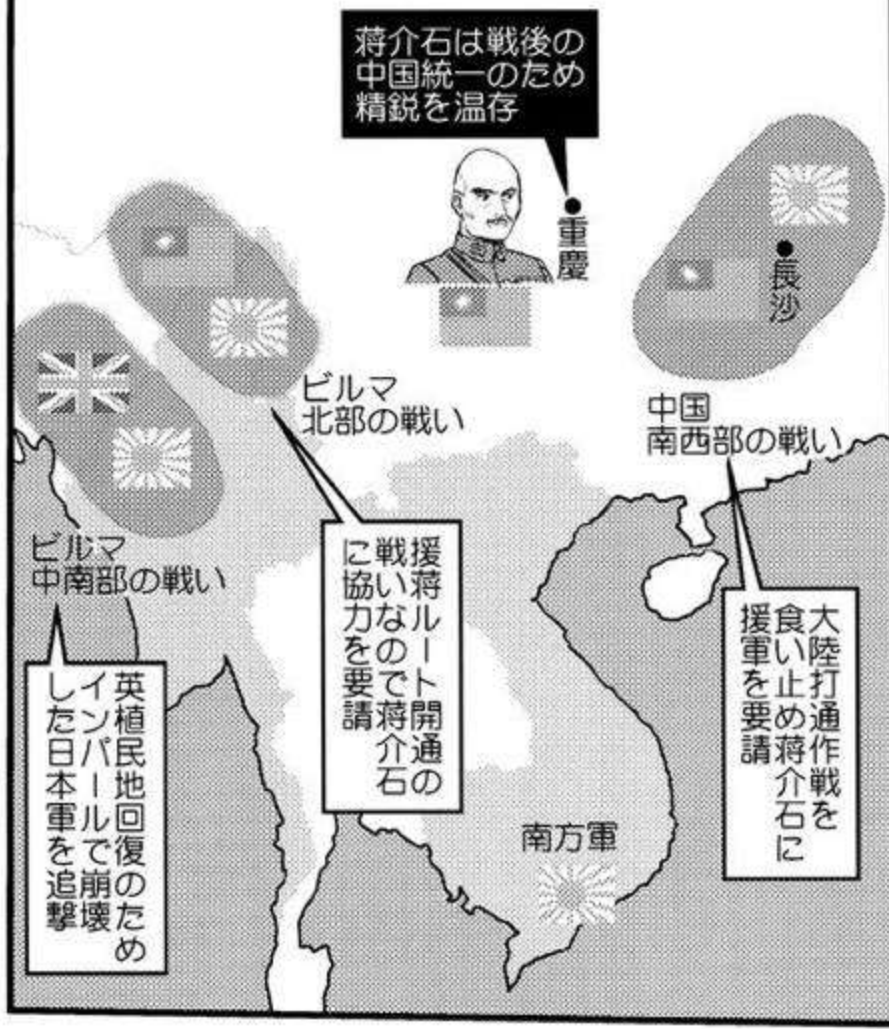
ドイツはすでに負けた



インパールでの日本軍敗走をビルマ奪回の好機と捉え、アジアでも攻勢に転じた

# ビルマ北部方面

## 大陸では3つの戦いが進行していた



重慶の蒋介石はスティールウエルの度重なる要請にも関わらず米軍式装備の精鋭中国軍や物資をどこにも使わず温存を続け

ピーナツ野郎は日本軍と戦う気など無くアメリカの援助物資は市場で売られている



二人の関係は感情的対立にまで発展していた

アジア米軍総司令官スティールウエル中将

ルーズベルトは戦後のアジアの安定を中国への援助で実現するつもりだった。蔣の態度を大目に見てきたが

今動かないなら米国の援助は無駄だったと判断せざるをえないでしょう

イギリスのビルマ攻勢にも連携しようとしないうちに遂に最後通牒を行った

蒋介石はようやく『援蒋ルート』開通のために限り精鋭を投入し、西から進むスティールウエルと日本の33軍を挟撃した



戦いは雨季や風土病に妨げられゆっくり進んだが、装備に劣る日本軍は次第に追い詰められ陸の『玉砕』が相次いだ

33軍の参謀は強引・独断で知られる『作戦の神様』辻大佐だった。辻は雲南遠征軍に戦力を集中し逆に攻勢に出る『断作戦』を立てた

水上少将は背後のミイトキーナを死守すべし!

水上少将は長期の持久は困難と伝えたが入れられず8月まで戦った後自決した

7月5日 第一次『断作戦』 龍陵包圍軍を撃退し開放

9月3日 第二次『断作戦』 再び龍陵包圍軍を攻撃するも拉孟・騰越が玉砕し中止後退

騰越

龍陵

ミイト

キーナ

# ビルマ南部方面

南ではインパール作戦で崩壊した15軍を追撃し英印軍は国境を超え侵入した



ここでも日本軍の装備と戦法では英印軍の戦車に有効な戦法がなく蹂躞された



この時期大本営では海で空母を防ぐ方法がなく決死攻撃を採用したように陸でも戦車への決死攻撃を考案していた

全員集合せよ!

対戦車攻撃の  
新兵器が発明された！

これが  
『背囊爆雷』だ

これを背負い  
敵戦車に轢かれることで  
高価な戦車と乗員数名を  
道連れにできる！

これからその  
やり方の訓練を行う



くはははは

教官！

それを発明した者は  
試しにどこで轢かれて  
死にましたか？



何が新発明だ：  
兵隊を殺す発明か：

ようやく敵の装甲を  
撃ち抜ける新型の  
速射砲でも出来たの  
かと思ってみれば：

人をバカにする  
にも程がある



こんなものに  
訓練などいらぬ

教官！  
次の戦闘であんたが  
轢かれて手本を  
見せてくれ

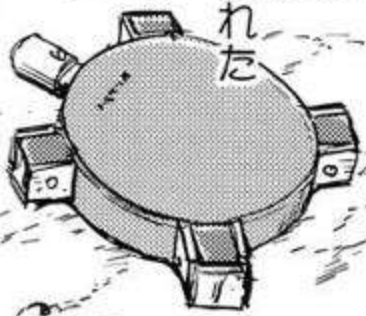
それで戦車が  
撃破できたら  
俺たちは  
その通りにやる



轢かれるの  
訓練も  
糞もあるか

古参兵の多い部隊での  
この時の訓練は反発で  
ウヤムヤのまま中止された

99式破甲爆雷  
(通称・亀の子爆雷)



しかしこれ以後終戦まで  
若年兵や素人にも可能な戦法として  
各地の戦場で実行されることになる

### 中国方面

『大陸打通作戦』は本土空襲を防ぐと  
いう目的は達せなかつたが、それでも  
中国軍を次々撃破し蒋介石に深刻な  
打撃を与えていた



6/26~8/8  
『衡陽の戦い』  
中国軍は激しく抵抗し  
日本軍は2度攻略失敗  
インパールの二の舞  
とまで懸念されたが  
蒋介石は援軍を送らず  
3度目の攻略で降伏

日本軍の  
侵攻は空軍だけで撃退できると主張  
して将に重用されていた米第14航空軍  
シエンノート中将も面目を失った

シエンノートは日中戦争では  
義勇航空隊『フライイングタイガース』  
を率いて中国軍の航空支援を行い  
太平洋戦争が始まってからは  
正規の米航空軍司令官となった

航空至上主義だった彼は  
ステイルウエルと対立し  
独自の対日戦略計画を  
統合参謀本部へ提出していた

私に常時500機と  
十分な補給を与えれば  
日本は中国からの航空攻撃  
だけで降伏させられる



冷徹なマーシャル陸軍参謀総長は  
シエンノートの大言壮語を  
一顧だにしなかつた

バカけている

マズい戦略ですらない  
ただただバカけている



今やステイルウエルの警告通り  
飛行場は次々日本軍に奪われた

何度も言ったはずだ  
地上兵力なしにどうやって  
飛行場を守るんだと

出来ると言っていて  
きたんだから言葉通り  
やってみせるといい

日本軍を止められ  
ないのは貴公が要求した  
航空機や物資を回さず  
数が足りないからだ



憤った蒋介石は今度は  
ルーズベルトに選択を迫った

ステイルウエル將軍の  
要請に従った結果  
ビルマのちっぽけな  
土地を得る代わりに  
中国南西部を失った

このままでは  
いつまで抵抗を続け  
日本軍を中国に引き付けて  
おけるか自信がありません



ルーズベルトはすでに蒋介石に  
失望していたがステイルウエルは周りと  
衝突が絶えない上に蒋介石をピーナツと  
呼ぶなど気に障る部分もあつた

一国の  
元首相手にはもつと  
敬意を払うべきだ

米中の司令官達は互いの  
非難をフシントンに送り続けた

10月11日 ステイルウエルは解任され  
中国からの攻勢という戦略は消滅した



頼みのドイツの敗北が確定し  
東西から戦線が崩壊しつつある今



海軍が米艦隊を撃滅し  
レイテに上陸した米軍が  
裸になったことは

八方塞がりの状況に現れた  
天佑と思えた(思いたかった)

山下將軍はフィリピンへ向かう前に  
大本営に挨拶に訪れ梅津參謀總長と  
会談を行った

敵はフィリピンが  
ダメな時はどのルート  
からでも日本を狙える  
と思うが方面軍はいつまで  
戦えばよいのか?

米軍をルソン島で粉碎  
してくればそれでいい  
その後他から進まれても  
戦争には勝ったことになる

建前を言っ  
てるのか...?

最善を尽す  
ことを誓います



# 一撃講和論

もはやアメリカを再び  
押し返すことは不可能なため

どこかで全力を上げて  
米軍に一撃を与えた上で  
条件を弛めて講和を  
受け入れる

『戦争には勝ったが  
条約交渉で譲歩しすぎた』  
という日露戦争と同じ落とし所で  
陸軍の面目も保たれる

これが參謀本部の考えだった



そのために必要な一勝は  
準備不足で本土決戦でしか  
望めそうになかったが  
出来れば本土は  
避けられた

そこへ  
レイテ島で実現の望みが  
転がり込んできたのである

レイテ島



## レイテへ全力を 注ぎ込む

陸軍は『大東亜決戦機』として  
中国戦線から運用を始めていた  
新型航空機をフィリピンへ  
集中する決定をした

### 大東亜決戦機



四式戦闘機『疾風』 3890kg 2000馬力 最高速640km

四式重爆撃機『飛龍』 最高速537km 800kg爆弾

この内『疾風』は太平洋戦争  
日本最優秀戦闘機と言われ  
F6Fと互角に戦える性能を  
持っていた

海軍がフィリピン戦に新型機  
『紫電』を30機しか投入できな  
かったのに対し陸軍は合計  
350機の『疾風』を投入した

内地で血の出るような  
思いで作った飛行機を  
空中戦もせず地上で  
焼かれるとは何事か...

しかし!

この時期の  
日本機の例に漏れず  
不調や事故が頻発し  
実働機は50機程度  
を超えなかった



レイテ島は中央をジャングル  
の山脈で  
東西に分断された地形となっていた



レイテの守備隊だった16師団は  
要所で米軍の威力偵察部隊に  
待ち伏せや夜襲を行い

ニューギニアの  
ジャップは手強かったが  
フィリピンのジャップは  
逃げてばかりだな

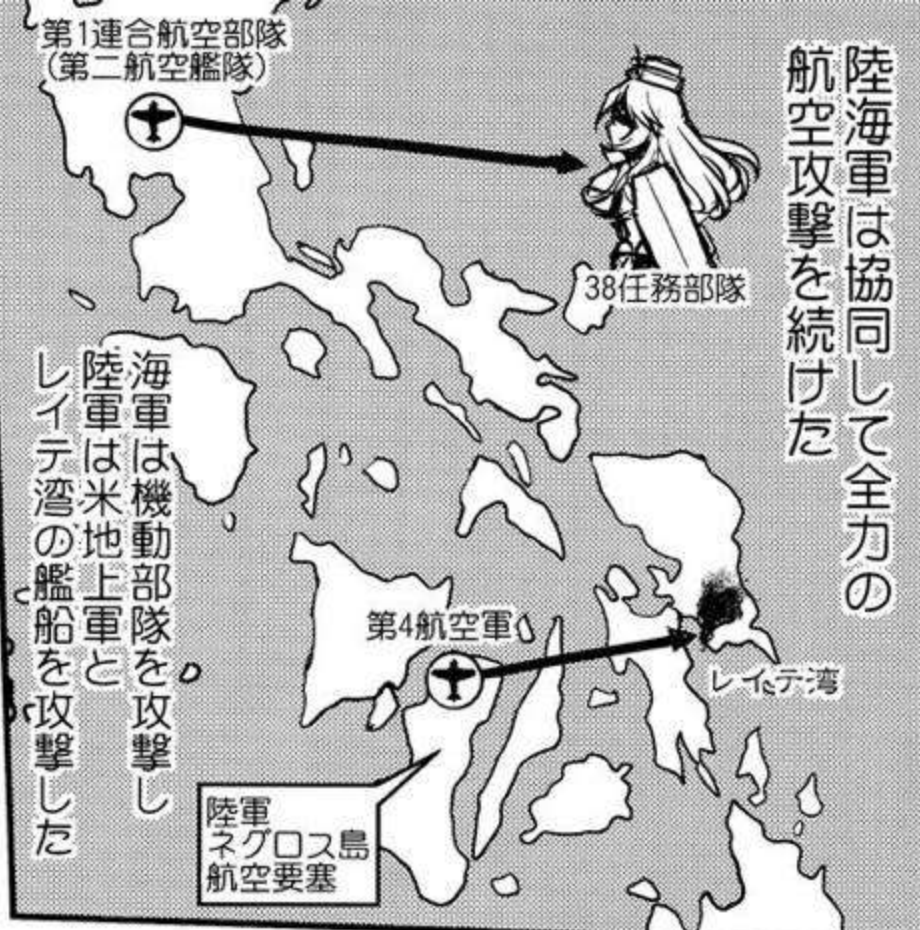
一旦引いた米軍が  
戦力を整え再び進軍する  
すでに陣地を捨てて居ない  
『遅滞戦術』で中央山脈まで  
後退して行った

10月27日 上陸点タクロバンの飛行場が  
整備され米陸軍機のP38(36機)が  
モロタイ島から進出した

役目が  
終わった第7艦隊  
『タフイ』護衛空母群は  
激戦の修理と補給のため  
マヌス島へ後退していった



陸海軍は協同して全力の航空攻撃を続けた



陸軍航空隊は『疾風』が低い稼働率ながらもP38からレイテ上空の制空権を一時奪回し湾内への爆撃や機銃掃射を行った



二航艦による神風特攻は27日から始まった

ジャップの自殺攻撃機だ

ファイアアーツ



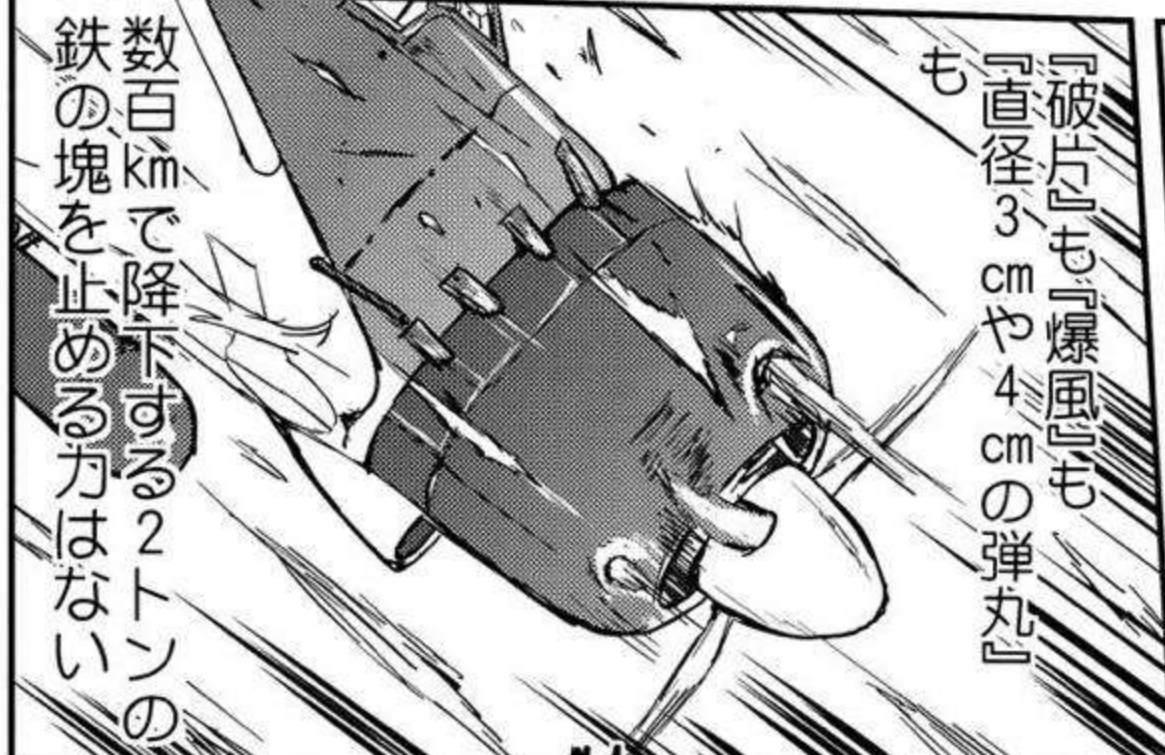
対空の革命兵器『VT信管』は爆風と破片で機体を損傷させて攻撃のコースに入れさせないのが目的である



28ミリ対空機銃と40ミリ対空砲ポフォースもない」と思って避けることが前提の兵器である



『破片』も『爆風』も『直径3cmや4cmの弾丸』も



数百kmで降下する2トンの鉄の塊を止める方はない



キル ジャアアツプ!

イントレピッド 無理だ!

回避しろッ



10月29日 空母『イントレピッド』に1機命中損傷



10月30日 空母『フランクリン』大破 軽空母『ベローウッド』大破 2隻は修理で後退したため ハルゼーは4群だった空母部隊を3群に編成し直した

11月1日 狙いをレイテ湾に変え 駆逐艦『アブナーリッド』撃沈 駆逐艦『クラクストン』 『キレン』 『アムメン』損傷



特攻は二航艦でも 通常攻撃の戦果がない中 次々と戦果を上げた

現在比島上空は我軍が優勢なり



10月31日  
『多号輸送』第2次船団がマニラを出発した



連合艦隊は全軍の期待を背負う師団の護衛を『第1水雷戦隊』に命じ輸送船4隻に対し護衛艦10隻(駆逐艦6海防艦4)と万全を期した

『第1師団』は番号の通り帝國陸軍創設以来の精鋭師団である



伝統的に天皇への忠誠度も高かったため天皇親政を狙ったクーデター『二・二六事件』を引き起こし、満州へと遠ざけられていた

11月1日夜、オルモック到着  
第1師団1万1千は順調に上陸した  
同時にセブ島にいた35軍司令部と司令官鈴木宗作中將も上陸した



明け方の揚陸作業終了間際にB24の爆撃によって輸送船1隻を失ったが全体の95%が上陸を完了した

任務は成功！  
マニラに戻るわよ



米第6軍のクルーガー中將は上陸以来2万の日本軍の内1万3千を倒して目標のカリガラ湾に到達していた

レイテ攻略は終わり掃討戦を残すのみと考えていたため偵察機からの新たな敵上陸の報告に衝撃を受けた

空と海で敗れ去ったこの段階において我軍の目と鼻の先に完全な1個師団が上陸に成功するとは驚くべきことだ



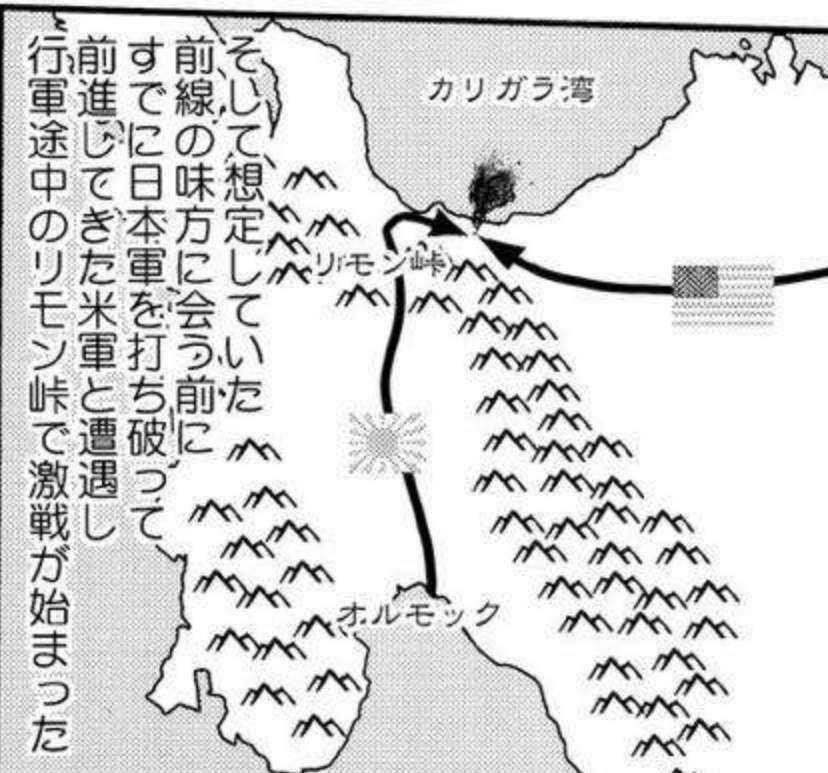
一方、連合艦隊の大戦果を素直に信じ無線の不調で前線の戦況を知らなかった鈴木35軍司令官も戦いの先行きを楽観していた

マッカーサーが降伏してきた時は上陸部隊だけでなくニューギニアや他の方面を含めた降伏を要求するつもりだ

海軍の戦果は信じられないが、前向きな方が良く戦ってくれるだろうし何も言うまい

14方面軍  
朝枝情報参謀

第1師団は前線へと進むにつれ砲爆撃を受け楽観ムードは消えた



そして想定していた前線の味方に会う前にすでに日本軍を打ち破って前進してきた米軍と遭遇し行軍途中のリモン峠で激戦が始まった

11月1日、サイパンからの偵察用B29一機が初めて東京上空に姿を現した



陸軍は翌日すぐに97式重爆9機でサイパンの米飛行場を攻撃したが戦果無く3機を失った

B29の東京空襲が始まるのは時間の問題だと思われ



大本営はレイテ決戦での勝利を待ち望んだ

連合艦隊待機中のブルネイ泊地

雪風  
ただ今呉より  
戻りました

お疲れさま  
発電機は直った？

うん  
大したトラブル  
じゃないし  
磯風  
弾薬貰ってきたよ

助かる

さて戦いが終わって  
皆揃うたところで  
一つ提案がある

17駆逐隊は今  
わしが司令艦を  
やっとするわけじゃが

ここで司令艦を雪風に  
譲ろうと思うんじゃ

ええッ？



賛成だな  
17駆は最高の駆逐隊だ  
最高の隊のリーダーには  
最高の艦が成るべきだ

19キ  
19キ

でも…

余計な遠慮はいらん  
我が17駆は実力主義！  
今日から雪風がウチらの  
リーダーじゃ！

雪風戻ったか  
頼みたいことがあるんだが

ハイ  
今行きます

ホレみい上からも  
最初に声掛かるんは  
おどれじゃけえ

雪風  
瓦礫の撤去を

ハイ

雪風  
ちよっと  
曳航を

ハイ

えーい  
おどりやいっつも17駆を  
留守にしおつて！  
おらん色男はブ男より  
劣るんじゃ！  
やっぱ司令艦は  
わしがやる

さいですか

11月5日 午前1時  
損傷が大きい『青葉』『熊野』は  
内地で修理のため輸送船団に  
合流してマーラを出た

『我レ曳航能力ナシ』  
悪いけど先に  
行くよ

青葉さん  
意外と薄情  
ですわね…

しかし船団は  
すぐに米潜水艦に攻撃され  
雷撃を受けた熊野はルソン島  
サンタクルーズへ逆戻りした

ルソン島東方沖  
第38任務部隊

バンカーヒル

ジャップの  
自殺パイロット達は  
おそろく麻薬を  
吸わされてるんだらう

あるいは  
逃げられ  
ないように

操縦席に  
鎖で繋がれてるん  
じゃないかしら

違うな

奴らは  
子供の頃から  
天皇のために  
死ぬよう教育された  
エリート達なのさ

エセックス

レキシントン

自殺攻撃機が飛んでくる  
ルソン島の飛行場と  
マニラ灣を叩く!

出撃ッ!

11月5〜6日  
ハルゼーの機動部隊は  
述べ600機でマニラを  
空襲した

スリガオ沖で損傷したままの  
『那智』が爆弾と魚雷4本を受け沈没  
『曙』『沖波』も損傷

主力のクラーク飛行場では  
陸海軍の航空隊が迎撃したが  
海軍80機、陸軍29機が  
空戦または地上撃破で失われた

だが少数機で  
編成される特攻隊は  
飛行場以外にも  
分散して隠してあり

頼むぞ!

道路や  
広場からでも  
出撃した

『レキシントン』に特攻機  
2機命中

レキシントンは火災を起こしながらも  
『タイコンデロガ』に突入しようとする  
別の特攻機を撃墜した

2日間の空襲で  
ルソン島の日本軍施設に  
大きな被害を与えたが

FUCK

今度は  
旗艦『レキシントン』が  
修理のため戦列を離れ  
ウルシーへ後退した



二航艦も航空機をほとんど失ってしまったので大西は軍司令部へ直談判に飛んだ

空母1隻沈めるのに爆薬1トン分特攻4機が必要だ！命中率が5割なので8機で1隻

護衛機含めて3百機あれば空母15隻と次の上陸船団も撃滅できる！

3百機はとても無理だし練習航空隊から集められるだけ送ろう

大西は追加150機の約束を取り付けてマニラへ戻った

オイこれからは全部特攻になる

もういい飛行機は作らんでいいぞ

さあ皆さんお待ちかねの弾薬持ってきたよー

ブルネイ泊地

11月6日物資弾薬の緊急輸送作戦が行われ左世保から『隼鷹』『木曾』『卯月』『夕月』が到着した(『秋風』が米潜水艦に撃沈された)

隼鷹さん？航空隊は？

いやもう全然ないんで空母は格納庫が倉庫代りの輸送船ですわ

よし！弾薬の補給ができたなら第2艦隊は次の『多号輸送』に合わせるためもう一度レイテ湾へ殴り込め！

豊田連合艦隊司令長官

神参謀長

とうとう輸送船団の囀役デスか？

主力艦隊が自分から空襲されに行くなんて前代未聞デス

『多号輸送』は次にルソン守備隊から歴戦の26師団1万2千の輸送が始まった

第3次輸送船団 旗艦『島風』

輸送船5 護衛6 (駆逐艦4他2)

能代さんが沈んで『華の2水戦』の旗艦になった

26師団(5千) 兵站部隊 物資弾薬6千6百ト

第4次輸送船団 旗艦『霞』

輸送船3 護衛10 (駆逐艦6海防艦4)

26師団(7千) 1師団(残1千)

だが『南西方面艦隊』は海空一体の大作戦と息巻く連合艦隊司令部にウシザリしてさっさと船団を出発させた

島風、準備が遅れてるようだから先に出発するわ

スマナイ空襲のせいだ

と、とにかく第2艦隊は  
急いで出撃しろ

輸送船団に対して  
『強力ナル間接支援ヲ行ウベシ』



間接支援という  
曖昧な命令に  
変わったので



南シナ海

スルー海

第2艦隊

第3船団  
(第2水雷戦隊)

第4船団  
(第1水雷戦隊)

11月9日 18時半  
『第4次船団』は  
オルモックへ  
到着したが

現地の大発が  
空襲や転用などで  
わずか5隻に減っていて  
揚陸が進まなかった



事前の段取りが  
悪すぎるわね



明るくなると島の飛行場  
からP38(32機)とB25  
(30機)が追撃し反跳爆撃  
を行った

護衛の『疾風』6機や  
対空射撃の奮戦で  
B25を7機撃墜したが  
『輸送船2』海防艦1』を  
撃沈された

夜が明けてきた  
撤収するわよ



とつきの機転で  
海防艦を使い兵員だけは  
降ろしたが物資の大半は  
持ち帰りとなつた



残った船団は帰投中に  
3次船団と遭遇し  
一部の護衛を譲り  
入れ替えた

第2水雷戦隊

第1水雷戦隊

オルモックの敵は厳しいから  
2水戦の『若月』『長波』『朝霜』は  
そちらに返して1水戦の『初春』と  
『竹』をこちらへ戻すわね

重ね重ね  
スマナイ



11月11日 第2艦隊は陽動を終え  
ブルネイに帰投してしまつた

南西方面艦隊

できれば13日  
せめて3次輸送が  
突入する今日一杯は  
陽動を続けて欲しい

燃料不足で困難です



B24から第2艦隊出撃の報告を  
受け準備していたハルゼーは

陸軍から新しい船団(3次輸送)  
攻撃の要請を受け  
レイテの失策を取り返すべく  
出撃命令を出した

ホーネット

その数  
347機



マリアナで  
小沢艦隊を  
追撃した  
部隊を超える  
一機動部隊を撃滅できる  
ほどの攻撃だつた

ワフフ

まさに  
牛刀で鶏を裂くが如き  
過剰な戦力投入

ゴオオ

て...敵機...





飛行機をたくさん飛ばした方が勝ちの海戦なんて！



ほんとツマンナイなあ



島風！

朝霜…救援はいい



もう輸送船も沈んだ…任務は終わりでだマニラへ帰れ



17時30分 空襲後ボロボロのまま6時間浮いていた島風は大爆発し2水戦司令部と共に海没した

『朝霜』は幸運にも一隻だけ撃ち漏らされ翌12日マニラへ帰投した



こうして船団は全滅したが襲撃が到着の直前だったためその後多くの兵が泳いで島へ辿り着いた



これでハッキリしたアメリカの機動部隊は健在！

大本営も南方軍も大局を見失っている

これ以上戦力を引き抜かれてはルソン島の防衛も責任は持てない



山下と参謀長の武藤章は再び南方軍にレイテ決戦の中止を訴えた

南方軍の寺内元帥もようやく海軍の大戦果に疑いを持ち大本営に作戦の再考をほめかした



指導部の英断を望む

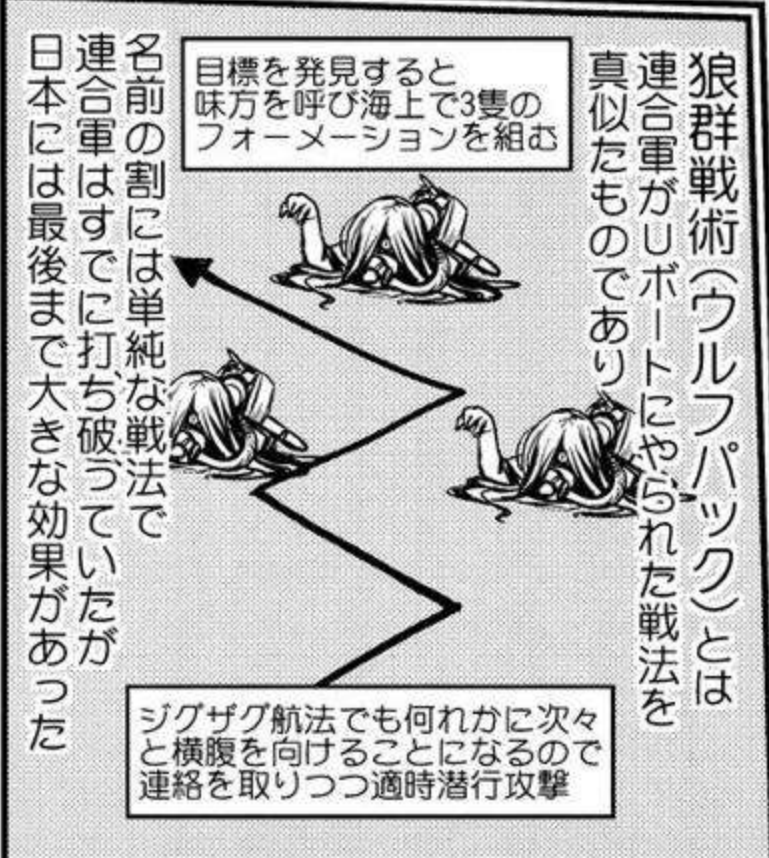
しかし大本営は「今後はルソン以外から増援を回す、下旬には航空兵力を大幅に増強する」と説得した



11月8日 『時雨』と海防艦2隻はブルネイから石油を運ぶタンカーの護衛に付いたが

クソツタレ爆雷をあるだけブチ撒ける！

マニラ寄港直前に米潜水艦の狼群戦術に襲われたあえなくタンカーを撃沈された



目標を発見すると3隻の味方呼び海上でフォーメーションを組む

狼群戦術(ウルフパックス)とは連合軍がUボートにやられた戦法を真似たものであり

ジグザグ航法でも何れかに次々と横腹を向けることになるので連絡を取りつつ適時潜行攻撃

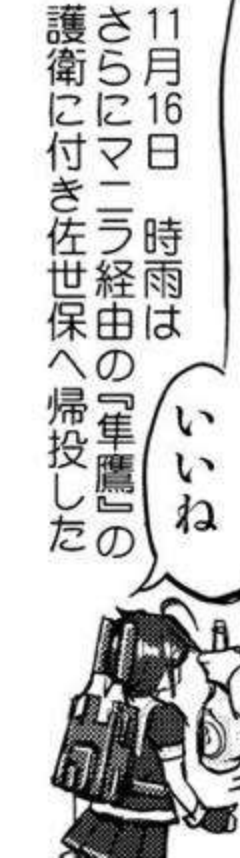
名前の割には単純な戦法で連合軍はすでに打ち破っていたが日本には最後まで大きな効果があった

『時雨』達は戦果不明としたがこの時『叢』『敷波』の仇『クローラー』を撃沈していた

長門はんが輸送のお礼にって戻ったら一杯やるか

いいね

11月16日 時雨はさらにマニラ経由の『隼鷹』の護衛に付き佐世保へ帰投した



ジャップはまだ  
レイテに増援する気だ  
マニラ湾にいる  
船を全て叩け



翌々日の11月13〜14日  
米機動部隊は再び  
マニラに襲いかかった



相次ぐ空襲に迎撃機も減っており  
湾内と近辺にいた輸送船  
20隻(8万ト)以上が沈没  
ほぼ全滅した

護衛の『第5艦隊』も  
大損害を受けた

阿武隈に変わり  
1水戦旗艦となった  
『木曾』沈没



『曙』爆弾1  
至近弾10で  
沈没



『初春』至近弾から  
火災で沈没

『沖波』火災で沈没



『秋霜』  
爆弾3で沈没

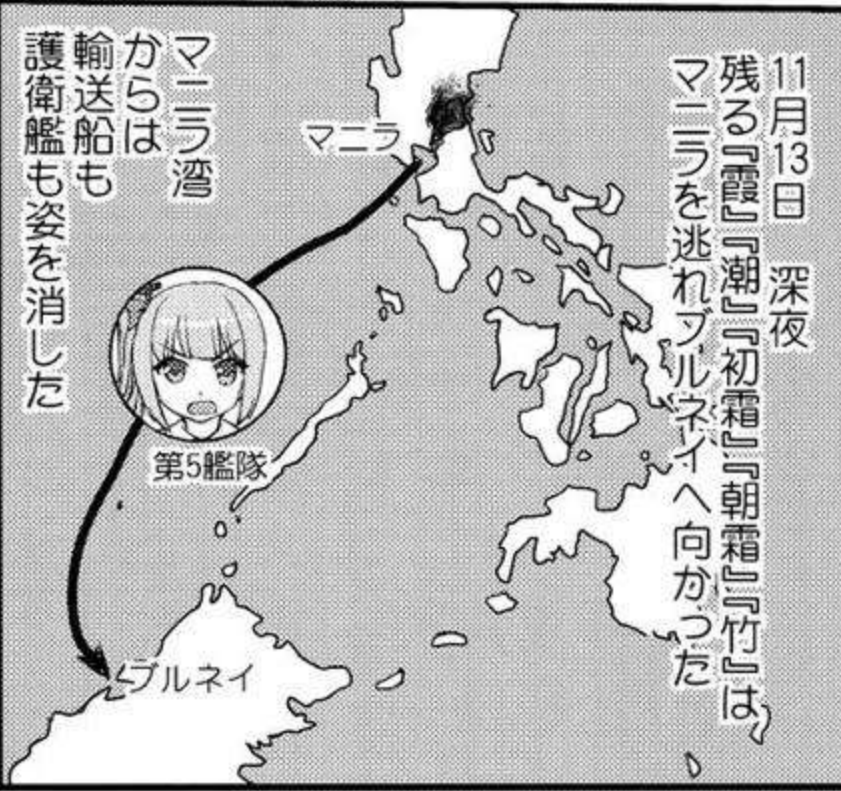
このままでは  
水雷戦隊が  
全滅する!

第5艦隊は  
マニラを脱出する



『第5艦隊』  
志摩長官

11月13日 深夜  
残る『霞』『潮』『初霜』『朝霜』『竹』は、  
マニラを逃れブルネイへ向かった



マニラ湾  
からは  
輸送船も  
護衛艦も姿を消した

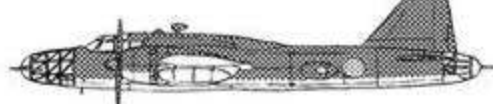
この時 7日から出撃を始めていた  
陸軍の『特別攻撃』が実行された

12日 ぼんだ 万朶隊(4機)



『99式双発軽爆撃機』  
800kg爆弾

13日 富嶽隊(5機)



『四式重爆撃機』  
800kg爆弾×2発

発表  
戦艦2輸送船1撃沈  
実際は戦果なし

陸軍の特攻は爆撃機に大型爆弾を積み  
1機で1隻撃沈を狙っていた

隊員は『捷号作戦』開始と同時に  
内地で決死攻撃とは知らせず志願を  
募ってフィリピンに送られた

そのため直前で通常攻撃に切替える  
者もいて万朶隊の佐々木伍長などは  
9回出撃しながら実行せず生き延びた

特攻に踏み切った時の  
陸軍『第4航空軍』の司令官は  
富永恭次中将

厄介なのを  
やっと中央から  
遠ざけられた

小磯首相

40年の北部仏印進駐では強引な  
武力侵攻を行うなど陸軍の暴走に  
関わった東條の腹心の一人だった

富永は航空関係の経験はなく  
航空隊への指導は大西を真似た  
精神論的なものに終始した

諸君らは神である  
全軍が諸君らに続く  
俺も最後の1機で行く



しかし  
遅い爆撃機の特攻は  
戦果が上がらず

海軍が戦闘機の特攻で  
成功していると知り  
11月下旬からは  
『隼』での特攻が始まった



マリア空襲に続き九州を出発したレイテ増援『23師団』を含む『81船団』が米潜水艦に襲われた



11月15日 『あきつ丸』沈没 2000名死亡

11月17日 『摩耶山丸』護衛空母『神鷹』沈没 4537名死亡

23師団はノモシハン事件後に火力を強化して再編された満州きつての精鋭だったが戦力の大半を喪失した

ここに至り大本営もレイテ島の奪回は困難と悟った

台湾からの更なる『10師団』『19師団』の移動も見送られ多号作戦は一旦中断された

だがレイテ決戦は11月8日の最高戦争指導会議で決定され天皇の裁可も得ている国家の方針で

レイテの戦いこそ大東亜戦争の天王山である



小機首相

参謀本部としては方針に従って作戦を立てるよりなかつた

ブルネイ泊地

ブルネイにはまだ『第1遊撃隊』として

この戦争でいつまで続くんでしようか

我が国が勝利するまでだ

自分が沈むまでデース

栗田艦隊の残存艦が待機していた



### 11月15日 軍令部は決戦用の『第1機動艦隊』と空母機動部隊『第3艦隊』を解隊し 残存艦を再編した

『大和』『長門』『金剛』と護衛の『矢矧』『17駆逐隊』は内地へ召喚

護衛よろしくね

ウチら最強の駆逐隊ですけえ

まだ戦えそうないままだ  
『榛名』『羽黒』『大淀』はリンガ泊地で  
『伊勢』『日向』『足柄』と合流

多号作戦護衛の『第5艦隊』の下に入った

シンガポールで応急修理中の『妙高』『高雄』は待機

(そのまま終戦を迎える)

元気だして

愛宕も鳥海も摩耶ももういないなんて

『第1水雷戦隊』は解隊されて『第2水雷戦隊』にまとめられこちらもリンガ泊地へ

開戦時6隊だった水雷戦隊は『華の二水戦』のみとなった



天皇は艦隊を壊滅させた  
豊田長官のやり方を批判した

海軍は無謀に艦隊を出して  
非科学的に戦をして  
失敗した



マニラ大空襲を終えた  
エセックスは補給と整備のため  
一日ウルシーへ戻っていた



ペリリュー島は  
まだ戦ってるのか

マッカーサーがレイテ島に  
上陸してすでに一ヶ月

上陸支援のための  
海軍飛行場確保という  
役割自体がなくなっていたが



米上陸軍はこれまで通り  
島の完全な制圧にこだわり  
日本軍は全員死ぬまで抵抗し  
戦線のはるか後方で  
意味を失った死闘が続いていた

日本軍が立て籠った隆起した珊瑚礁  
での戦いは死体や食べ残しや糞尿が  
染み込まずに腐ったままとなり

米兵は大発生する蟻と悪水から来る  
下痢に苦しめられながら戦った

昨日は  
あの死体まで  
進んだので  
そこからだ

『ペリリューには2つの場所があった。  
悪臭のする場所と、ものすごく悪臭の  
する場所だ』と海兵隊員は言った



米兵よりさらに悪条件で戦い続ける  
守備隊に天皇は11度も嘉賞を送り  
激励を続けた

11月24日 遂に食料と弾薬が尽きて  
中川大佐は決電後自決し、残る55名は  
米軍に突撃して玉砕した



ウルシー泊地



いい天気だ  
こんな美しい場所で  
殺し合いしてるのが  
場違いに思えてくる...



11月20日  
給油艦『ミニシネフ』  
突然の大爆発轟沈



何だ？  
攻撃か！

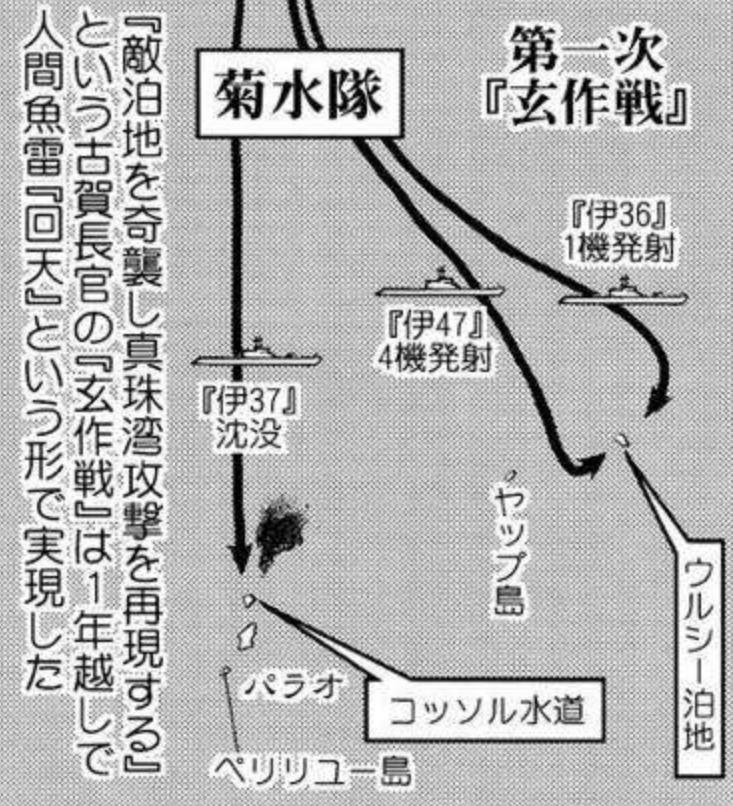
ジャップの甲標的が  
侵入してるぞ！  
哨戒部隊は何やってる



この日、海での特攻も始まった

第一次『玄作戦』

菊水隊



『敵泊地を奇襲し真珠湾攻撃を再現する』  
という古賀長官の『玄作戦』は1年越しで  
人間魚雷『回天』という形で実現した

他の特攻と同じく確認が困難な  
戦果は大きく発表され

発表戦果  
撃沈空母2戦艦3

ようやく戦果を  
上げた『第16艦隊』は  
以後『伊号』を回天作戦専門とし  
通常の戦闘や任務は小型の『伊号』が行った



11月21日 ブルネイから内地へ戻る  
『第2艦隊』は台湾沖で  
詳細不明の電波を受信した

嫌な感じがするので  
速度を上げて一気に  
突っ切るデス

深夜3時 艦隊を捉えていた  
米潜『シーライオン』は『長門』と『金剛』  
に向け魚雷6本を発射した



金剛に2本命中

長門を狙って外れた一本が  
護衛の『浦風』に命中

浦風は  
あつという間に  
轟沈した

金剛大丈夫か！  
損傷は？



アウチ：  
ちよっと浸水した  
みたいデス



しょうがない  
一旦台湾へ寄ってく

ここは危険だから  
長門達は先を急ぐネ



金剛さんには  
『磯風』『浜風』が付いて

そうしましょう

はい！

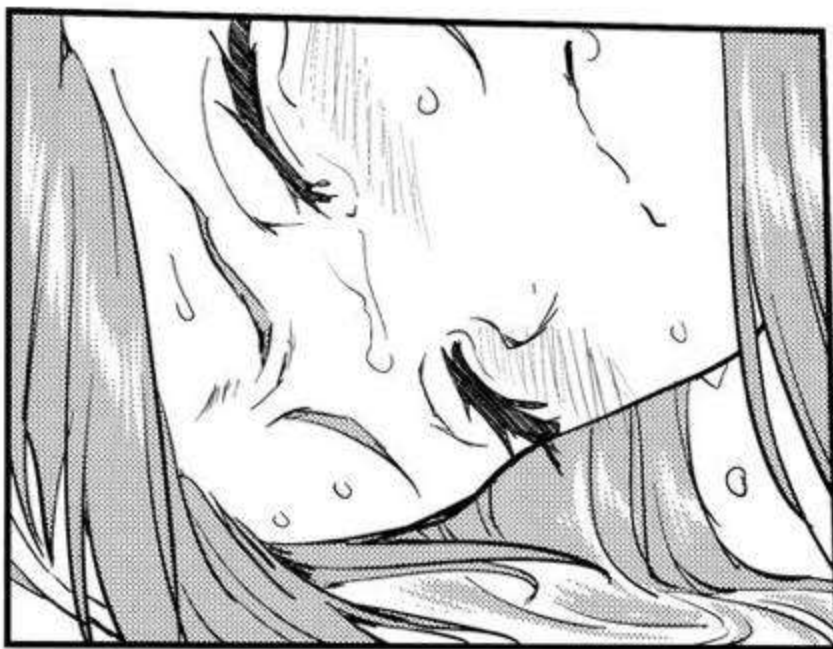
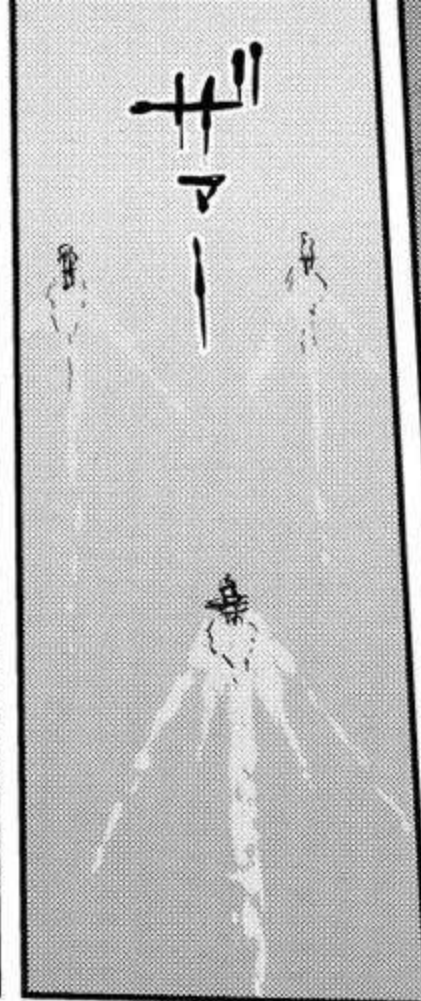


金剛さん：

大丈夫  
デース！

戦艦は魚雷2発くらい  
どうってことないから





5時30分 被雷から2時間後  
『金剛』は大爆発を起こし沈没した



離れて:  
弾薬が誘爆する  
かもデス:

レイテ島では米軍が3つのルートから  
侵攻を図っていた

リモン峠の戦い  
11/2~25



日本が車両の通行不  
可能と判断した道を  
ブルドーザーで広げ  
鉄板を敷いて進軍

日本軍は西側平野への  
唯一の進入路と思われた北の道路  
で防ぐため山中に展開していた



西への通路リモン峠で第1師団は  
米軍を3日に渡って撃退した後、勢いを駆  
って攻勢に出たが失敗し兵力を失った



一方、米軍も中央山越えからの奇襲を狙い  
まず1個中隊(250名)が山に入った  
無理だ  
もう戻ろう

米軍は代わりに山脈の麓に  
160門の155mm砲を配備し  
山越えに激しい砲撃を行った



オルモック平原の殆どが射程に入り  
日本軍は夜間にしか動けなくなった

偽の煙を上げて  
米軍が何発打つか  
数えてみる



こっちは  
偵察機を避けつつ  
一日1門15発すら  
撃てないというのに

上部の組織は現地との通信状態が良く  
ないため状況把握に苦慮していた

ネグロス島の  
第4航空軍に  
出向しますが  
レイテ島の様子も  
見に行きます

そうかご苦労  
これは貰った英国の  
煙草だ、良かったら  
吸ってくれ

14方面軍山下司令官

南方軍高橋参謀

高橋参謀は35軍司令部と共にレイテ島に  
渡ると引き止めを聞かず従者一人を連れ  
山中に展開する日本軍前線を目指した



これで  
道と言えるのか

山中には所属不明の日本兵があちこちに  
たむろしていた

敵はあつちだ!  
速やかに自分の  
部隊へ戻るんだ

これは後々  
厄介な問題に  
なりそうだな

隊に戻ると斬込みに行かされるので  
敗走したまま遊兵となつた者達でやがて  
味方の輜重兵などを襲うようになる



寒い...  
霧と豪雨が続いて  
山の冷気で凍えそうだ

ジャロ方面の前線に着くと  
栄養失調とマラリアに侵され  
蛙・トカゲ・蝸牛などを食べな  
がら蛸壺に籠もって砲撃に  
耐えている日本軍の姿があつた



高橋か!  
よく来てくれた

それはおよそ  
比島決戦というイメージ  
からかけ離れたものだった

寒くて眠れない一夜を過ごす  
9人の斬込み隊が出発前の訓示  
を受けていた



これが  
我方の攻撃か...

一人手榴弾8個を持って  
敵陣へ侵入し大砲の車輪を壊して  
しばらく使えなくするという  
生還は望めない決死攻撃だった



そうだ

このスリーキヤッスルは山下閣下から斬り込みに行く諸君には是非届けてくれと預かったものだ

出発前に一服してくれ

うう…  
いただきます  
もったいないです  
取っておきます

よせよせ  
すぐ湿気ってしまう  
今吸った方がいい

その場にいた者は皆涙を流していた

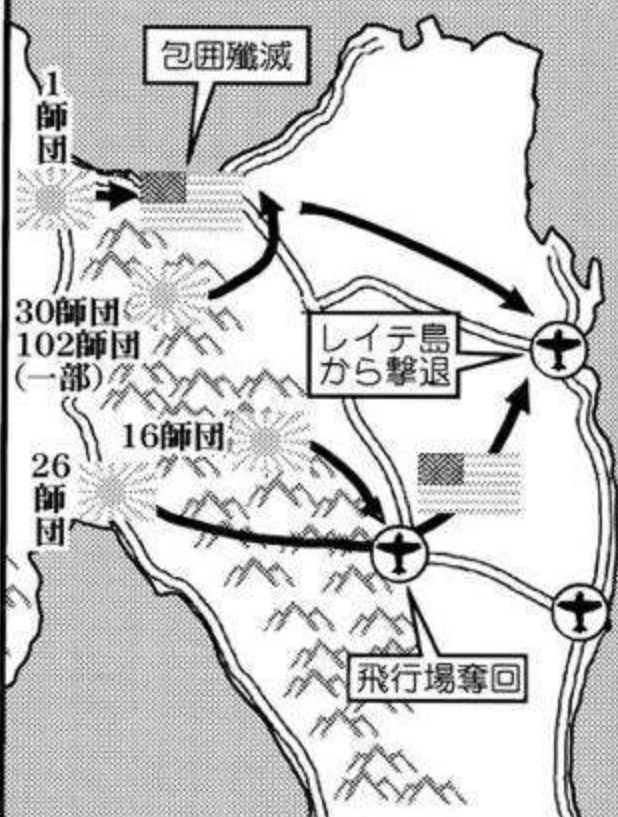
その後 高橋参謀は  
オルモックへ戻ったが

一日だけ米軍の山越えの  
砲撃がない日があった

きつと彼らが  
やってくれたん  
だろう…

※米軍側の損害記録はなし

参謀本部ではともかく決戦に勝つための作戦が作り上げられた



しかし現場とのギャップは広がっていた  
弾薬や糧食が不足しているのに

大本営は  
ろくに武器も持たない  
兵ばかり次々送り込んで  
何を考えてるんだ!

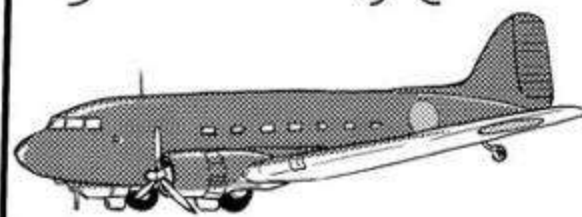
山下は『多号輸送作戦』を軍需物資に絞って再開する決定をした

装備を失ってる  
26師団に補給を行い  
戦力にしなければ  
作戦が実行できない

輸送船団への  
空襲を防ぐため支援作戦として  
空挺部隊によるレイテ島飛行場への  
斬り込み攻撃『義号作戦』が立てられた

『義号作戦』とは

手榴弾12個を持った  
決死隊20名を乗せた輸送機で  
敵が居ようが居まいが構わず  
敵の飛行場に胴体着陸し  
手当たり次第に周りの  
飛行機や設備を破壊して  
弾を打ち尽くした後脱出し  
近辺の味方に合流するという



かある『薫空挺隊』

零式輸送機 (ダグラスDC3) 4機 (各20名)

部隊の半数程度は  
皇民化政策によって  
日本国民となっていた  
台湾人の勇敢な高砂族  
だった

軍事の常識を無視した  
ようなものすごい作戦で  
事実上の特攻である

さらに陸軍取っておきの  
潜れない潜水艦こと  
『まるゆ』も軍需品  
輸送に回され

11月23日  
『第5次多号輸送』は  
2つの梯団に分けて  
始められたが

第1梯団  
輸送船3駆潜艇1  
(兵1000・軍需品)  
11/25 全滅

第2梯団  
輸送船3駆潜艇『竹』  
(軍需品)  
11/25 輸2沈没で撤退

停泊中に  
あつげなく  
米機機動部隊に  
空襲され壊滅した

セブ島  
海軍根拠地隊  
ビザヤ方面で  
絶対に不可!

今頃こんなことを  
やるなんて  
どうかしてる



初めて  
実戦に投入される  
ことになった



支援の『義号作戦』も実行されたが



着陸後日米双方に何の記録も無く、  
航空挺隊の行方は一切謎のままである

一方『まるゆ』3隻は米駆逐隊4隻に  
2号が撃沈されながらも

27日オルモックに到着  
米6百箱、薬、バッテリーなどの補給と  
離島にいた小部隊の移動を成功させた



11月25日 多号輸送を叩いた同日  
ハルゼーはマニラから範囲を拡げて  
ルソン島全体の空襲を行った



すでに次のルソン島上陸を  
見据えての攻撃だった

マニラから離れたサンタクルーズで  
動けなくなっていた『熊野』にも  
30機が襲ってきた

この音：  
また空母部隊の  
空襲ですわね

何度も  
何度も

いい加減に  
してください

もう  
ヒコキと  
潜水艦は

でウンザリ  
ですわ!



15時15分 爆弾4魚雷5を受けて



『熊野』は沈没した

内地からルソン島増強の輸送を続けて  
いた船団にも90機が襲いかかり  
軽巡『八十島』と輸送船3が全滅



ルソン防衛の貴重な火力である  
『一式砲戦車』など新型12輛を擁する  
戦車部隊が海没した

第二航空艦隊も迎撃する  
航空機が無くなりつつあったが



神風特攻隊4隊が突入を行った

来たぞ  
カミカゼ  
アタックだ

ファイア!  
撃ちまくれ

『カボット』に2機命中



カサツランカ級護衛空母  
『カボット』に1機命中



ガッテム 落ちろ!  
サノバビッチ 落ちろッ



『エセツクス』は1機を撃墜するも  
もう1機が命中  
『ハンコック』は撃墜に  
成功したが破片で損傷を受けた

カミカゼは突入に入る前に  
撃墜する以外方法がない



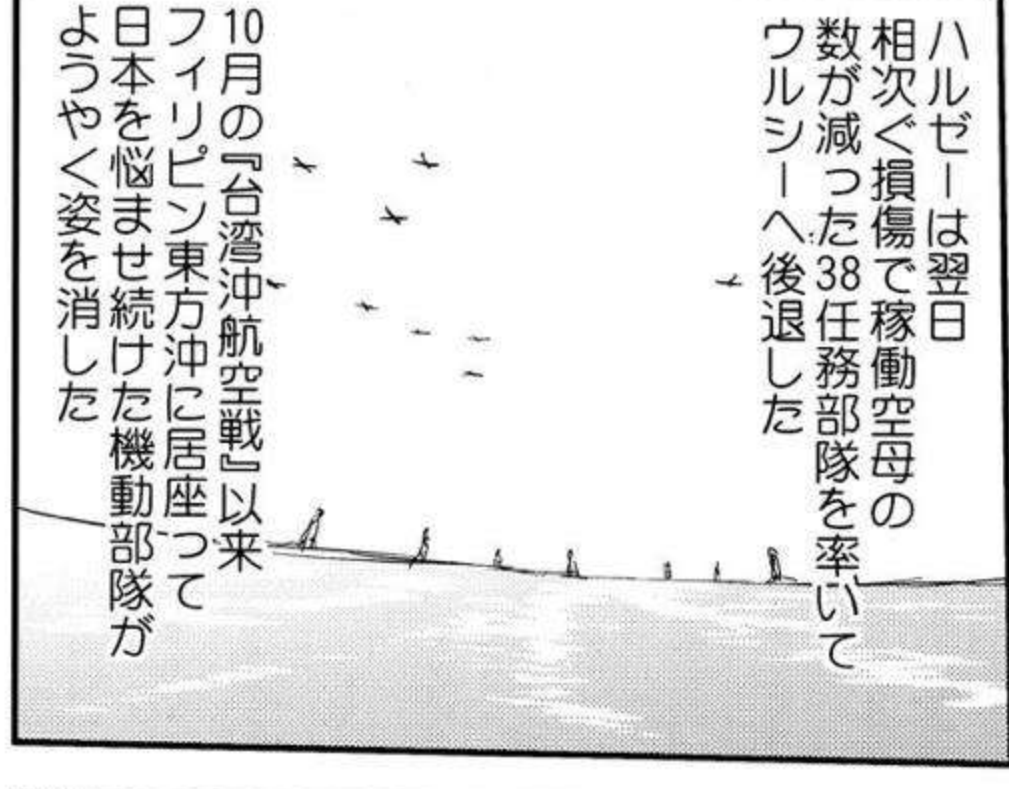
クレイジー  
キチガイ共め



……  
作戦は中止する  
引き揚げる



攻撃中止ーッ

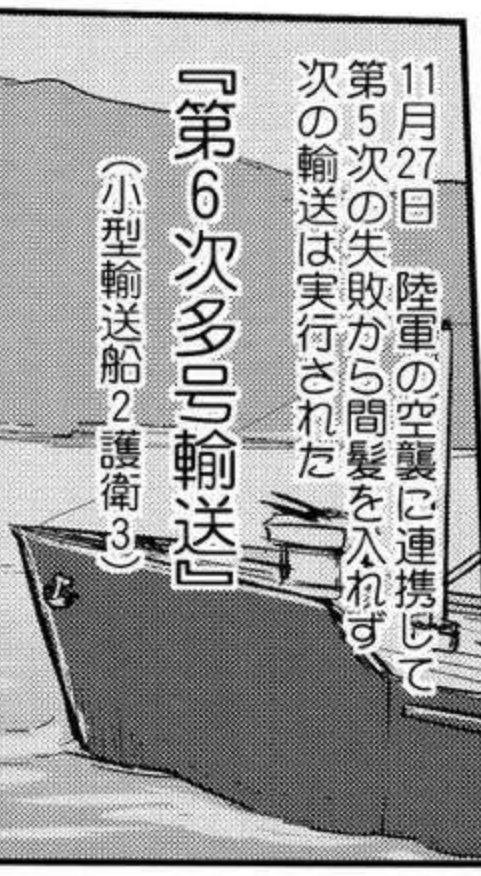


ハルゼーは翌日  
相次ぐ損傷で稼働空母の  
数が減った38任務部隊を率いて  
ウルシーへ後退した

10月の『台湾沖航空戦』以来  
フィリピン東方沖に居座って  
日本を悩ませ続けた機動部隊が  
ようやく姿を消した



空の勢力に変化が起こり  
今度は日本が攻勢  
陸軍の重爆『呑龍』による  
『タ弾(クラスタ爆弾)』を使った  
レイテ湾やタクロパン飛行場の  
空襲が成功した



11月27日 陸軍の空襲に連携して  
第5次の失敗から間髪を入れず  
次の輸送は実行された  
『第6次多号輸送』  
(小型輸送船2護衛3)

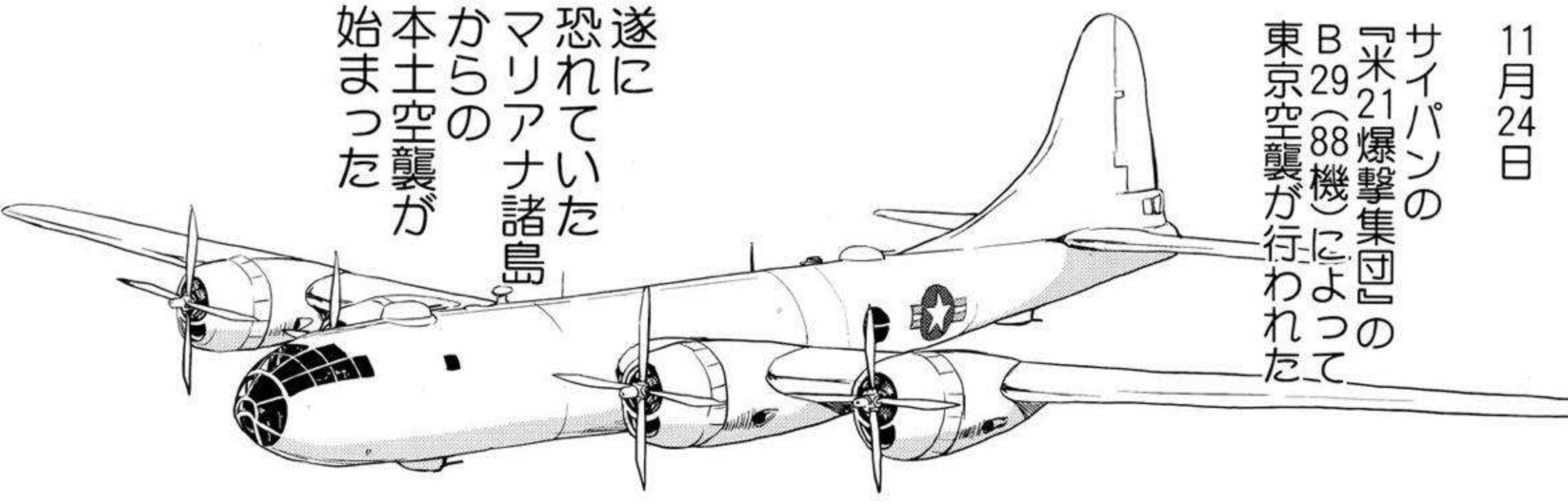


翌日オルモック着  
17日振りにまともな量の  
弾薬糧食が届いて26師団も  
ようやく補給を受けた  
船団は帰路で  
魚雷艇と空襲を受け全滅したが

大本営はレイテでの  
決戦に望みを繋いだ

11月24日

サイパンの  
『米21爆撃集団』の  
B29(88機)によって  
東京空襲が行われた



遂に  
恐れていた  
マリアナ諸島  
からの  
本土空襲が  
始まった

米陸軍航空軍司令官アーノルド大将の  
目的は航空機生産設備の破壊

標的は  
『東京』と『名古屋』



東京  
『中島飛行機』  
東洋最大の航空機  
メーカー

名古屋  
『三菱重工』  
中島に並ぶ2大  
航空機メーカー

同時に  
航空産業を支える  
従業員や部品工場と周辺のインフラを  
根底から機能不全に追い込むため  
爆撃は都市全体に及んだ

B29の飛行高度1万は日本機が到達  
するのに1時間近くも掛かる上  
空気が薄くてエンジン不調を起こし  
通常攻撃での迎撃は困難だった



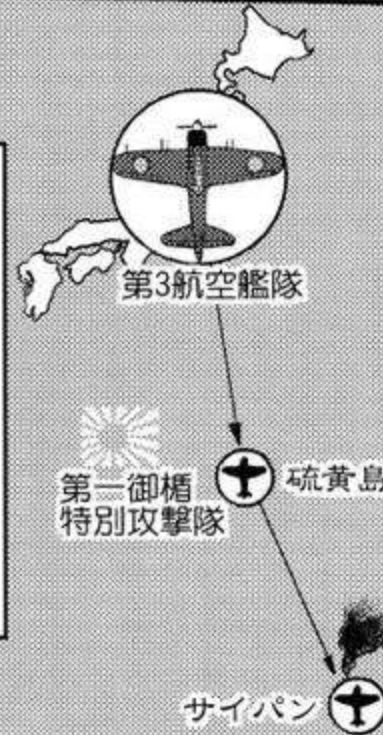
喪失  
『屠龍』他6機  
  
戦果  
『B29』2機

そのため陸軍は11月7日に  
機体をぶつけて撃墜する特攻隊  
『震天制空隊』を編成して初出撃した  
しかしこの日の戦果は期待を下回った

サイパンの飛行場に対しても  
海軍『第3航空艦隊』が硫黄島から  
すぐに反撃を行った

11月26日 夜間爆撃  
一式陸攻、四式重爆『飛龍』2

11月27日 機銃掃射  
『第一御楯特別攻撃隊』  
零戦12、彩雲2(戦果確認)



喪失  
『零戦』11  
『彩雲』1  
  
戦果  
『B29』  
地上撃破4  
大破6  
損傷22

ハンセル准将は被害の大きさに  
B29をグアムに分散させた

高高度から精密爆撃を行うハンセル  
のやり方は日本の上空に吹く風速  
30km/h(台風並)のジェット気流のため  
アトノルドが満足する成果は中々  
上がらなかった



ハンセルの  
主な空襲  
11月 東京5回  
12月 東京2回  
名古屋3回  
1月 東京2回  
名古屋3回  
阪神2回  
2月 東京2回  
名古屋1回  
阪神1回

東京湾

うーん

むーん

雪風  
うなりながら  
何見てるんだ

浜風も見て  
茨木の方

気球？

爆弾だって  
『気球爆弾』



# 『ふん兵器(風船爆弾)』

『風船爆弾』は日本上空で地球を一周しているジェット気流を利用した気球で吊った爆弾である

気流に乗ればアメリカまで50時間で到達するため本土への直接攻撃で厭戦感情が高まる事を期待された

44年6月の元帥会議で東條が答えた『これまでにない兵器』の一つである



2kg焼夷弾 2  
15kg爆弾 1

44年11月から4ヶ月間に9300発が発射されて285発が米大陸に落ちた市民6名が爆発で死亡したほか山火事などを発生させた

あれでアメリカ本土を爆撃するんだって

東京も一昨日やられたからやり返さないかね

VS



横須賀鎮守府

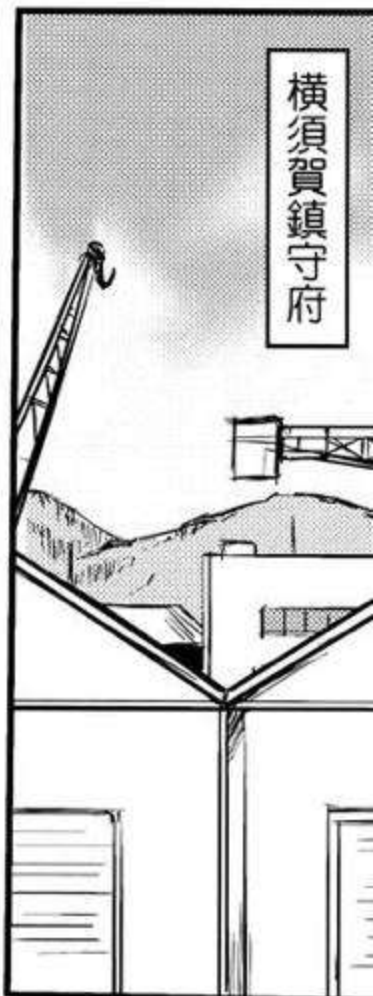
鎮守府のカレーも久しぶり

17駆逐隊もとうとう3人か

浜風も浦風も今ごろ靖国でもっと美味しいもの食べてるわよ

カレー

カレー



雪風 どこ見てる

あはは

目の前で動いてるとどうしても目が...

フフ：さすが『助平の雪風』目線が完全に男

と言いたいところだが：あながち分らないかもないな



浜風は  
テートクの秘書艦を  
務めてたんだ

当然そつちの経験も  
雪風の比じゃないぞ

それも  
お役目だし

任務には  
全力を尽くすのが  
軍人の務めです

スッ

だから  
雪風の夜這いが  
評判になってて  
興味はあったわ

どう雪風  
私のところに  
来てみる？

噂の『慰問袋』  
を持って

いやー実は  
その袋の張り型が  
比島沖海戦の前に  
割れちゃって

ふーん：  
それならせっかく  
内地にいるんだし

明日闇市に  
買いに行く？

闇市にそんなの  
まであるの？

高いけど  
以前売ってたのなら  
何でもあるわよ

そういうの扱ってる所も  
テートクに教えて頂いた



子供見ないね

都市の学童は田舎に疎開してるから

『闇市』

日本はこの頃多くの国民を動員し  
国家予算の7割を軍事費に使っていた

民間の生産品が減るため  
本来ならインフレになるが  
必需品の配給制と価格統制で防ぎ  
国民が持つ使い道のない金は  
戦時国債を買うように指導した

おじさん  
これと同じのが  
あれば…

こりや艦娘の  
精神注入棒だなら  
軍の払下げ品なら  
この箱の中だ

しかし生産者は統制価格が安いので  
商品を横流し闇業者が高値で売るブラッ  
クマーケットが半ば公然と存在した  
(軍や軍需工場が最大の闇買手だった)

物が豊富に手に入る順番は歌に唄われた

『世の中は』

陸軍 海軍 有力者 闇市  
星に碇に顔に闇

馬鹿者だけが

配給  
列に立つ』

ホントに  
あった

甘い物も買えて  
よかったわね

雪風は  
それでいいの？

うん

久々に  
揃った

慰問袋

悪いけど私は  
そんな懲罰用じゃなくて  
秘書艦の時にいただいた  
ちやんとした快樂用を  
使わせてもらおうわよ

はっ

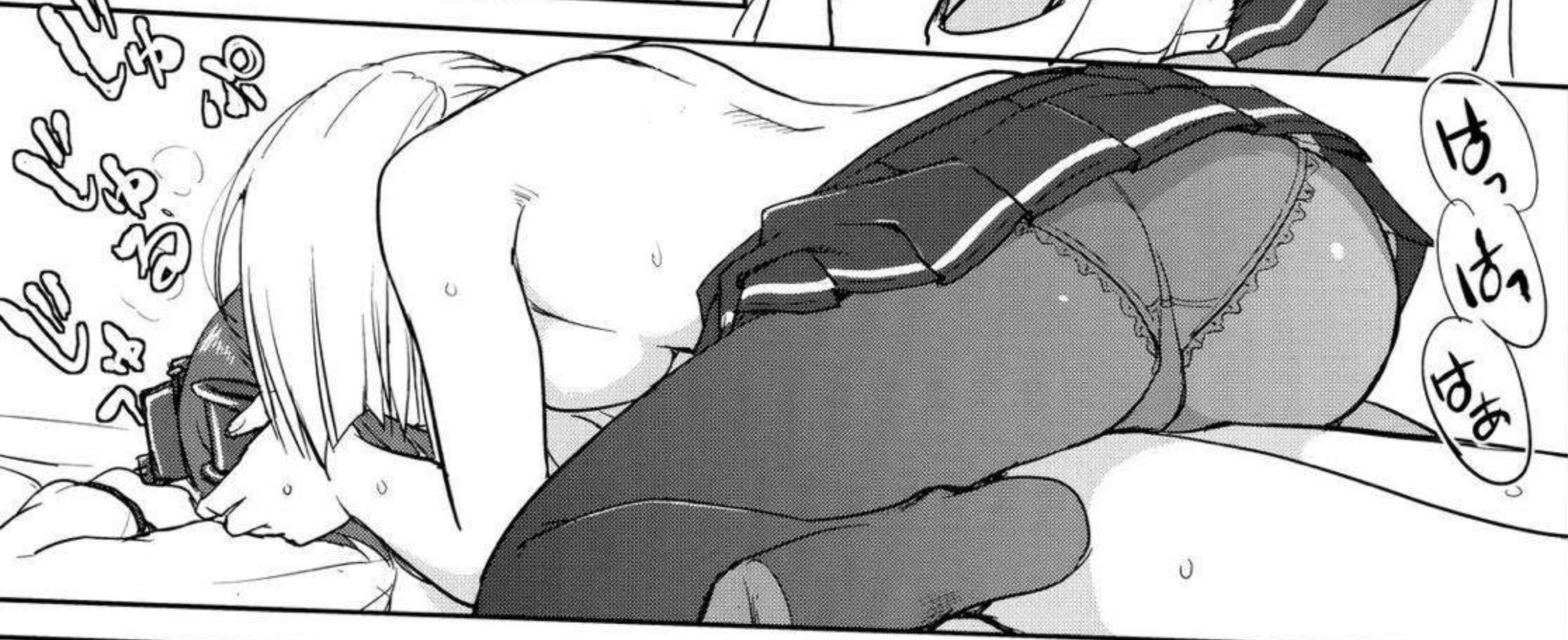
おお

さて  
相手して  
戴きませうか

『助平』さん

っん

どろ

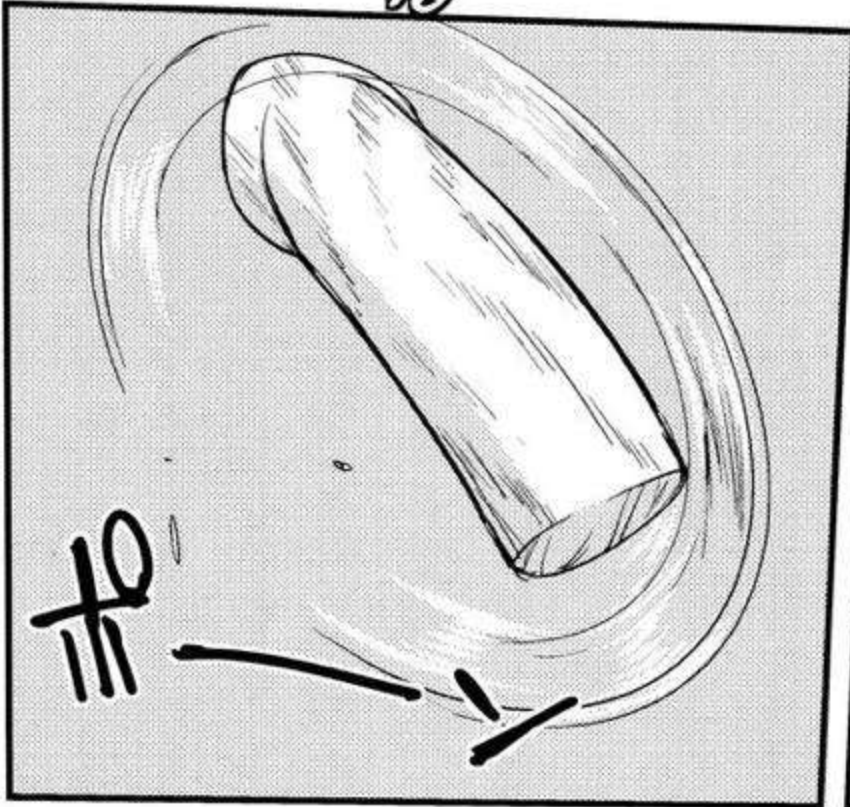




ふふふ…  
雪風のアソコ  
壊れちゃうかもよ

これぞ…





どうやら  
「秘書艦」だった  
浜風には遠慮は  
要らないようだから

最初から  
一番大きいのを  
使ってあげるね





ラスト！  
エンリョなく  
いってね！

あまあま

ひんひん



あまあま

ヒンヒン



あ：はは  
二人ともお疲れ様  
私はもう寝るので  
お構いなく



あれ？  
磯風



ふふふ  
浜風が  
気持ちよくなつて  
くれて嬉しいよ

磯風ーそんな  
急いで寝なくて  
いいでしょ

浜風

磯風には  
小さいので  
優しくして  
あげる

何だ!  
私はいい  
雪風浜風  
やめろ

やめてくれ

おん

今日は  
17駆の絆が  
より深まって  
良かったね!

私の恥態を  
見たからには  
同じ立場に  
なってもらわ



11月19日 竣工  
最後の正規空母『信濃』  
搭載 新型機47(諸説あり)



11月28日 横須賀

17駆逐隊です  
呉までの護衛を  
担当します

東京の  
空襲が始まって  
横浜も危険です



よろしくね

今は沿岸部でも  
潜水艦で危険と  
聞きます

だから  
敵の裏をかいて  
夜に沖を迂回して  
行きましょう



え？  
沖に出て  
遠回りを

いえ 敵潜は  
電探を使うので  
夜は不利です

昼に沿岸を  
迅速に突っ切る方が  
いいと思います

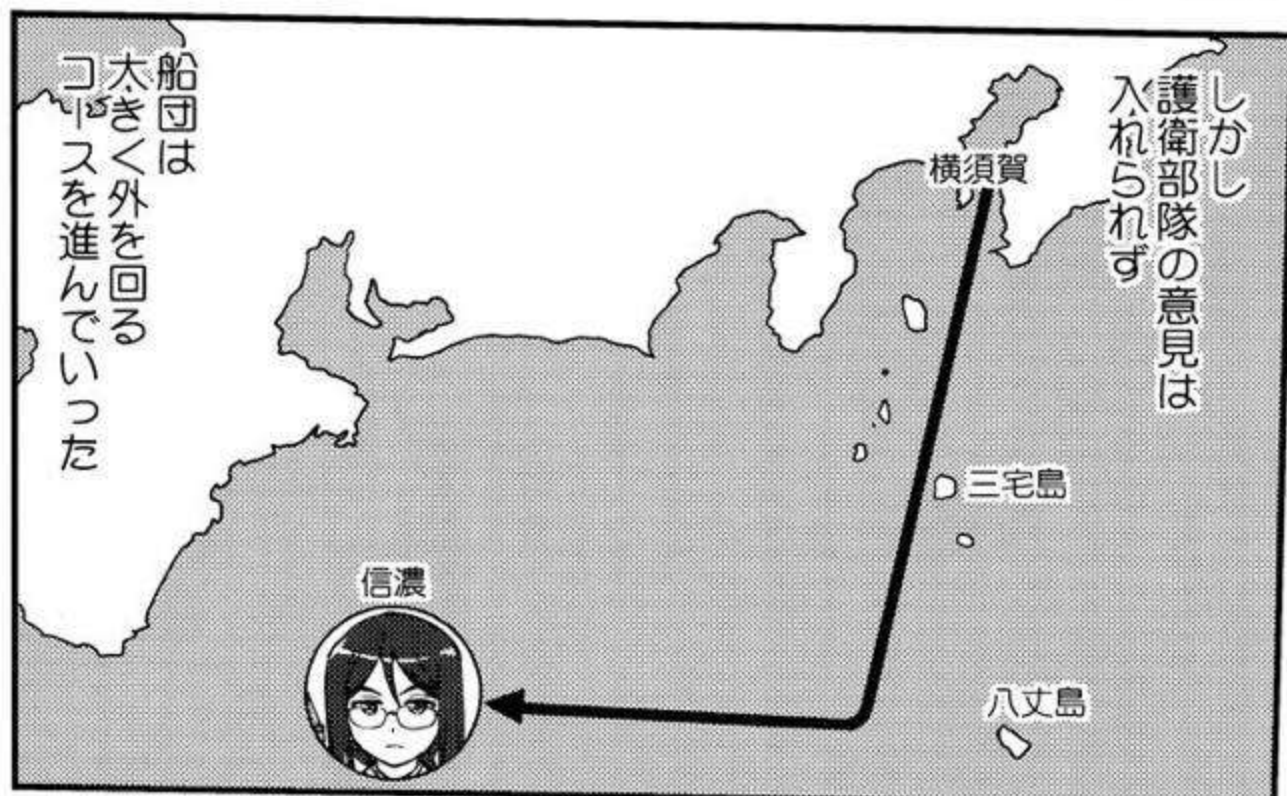


しかし  
護衛部隊の意見は  
入れられず

横須賀  
三宅島  
八丈島

信濃

船団は  
大きく外を回る  
コースを進んでいった



この工夫は裏目に出た  
空襲の不時着機の  
救助待機をしていた  
『アーチャーフィッシュ』  
が偶然船団を発見した

退屈な任務が  
空母発見で  
テンション  
上がった

11月29日 深夜3時13分  
追跡の後発射された魚雷6本中  
4本が『信濃』に命中

チツ  
やっぱり  
狙われたか！

ああ いやッ  
し浸水が！

信濃落ち着いて！  
大和型は魚雷数本くらい  
では沈まない！

初航海の信濃は対処に不慣れで  
浸水を止められなかった

重すぎて  
ワイヤーが  
保たない

浸水で重量が増したため  
17駆逐隊の曳航も失敗し  
7時間後の10時57分  
『信濃』は竣工10日で沈没した



レイテ島

レイテでは魚雷艇に続き駆逐艦が西側カモテス海へ侵入を始めた



水路の機雷封鎖をしていないとは... 日本軍を買い被っていたようだ

第7艦隊司令長官 キンケイド中将

11月28日 『第7次多号輸送』

小規模の輸送が成功したので 高速なSS艇(戦車揚陸艦)を4つの梯団に分けて行われた



この戦いは太平洋戦争最後の水雷戦と言われる

日本は『桑』が沈没 米軍は『クーパー』が沈没し撤退した

やりました 敵駆逐艦 撃沈!



第1梯団(3隻) 兵200、糧食弾薬  
第2梯団(2隻) 米駆逐艦で全滅  
第3、4梯団(3隻) 糧食弾薬

糧食弾薬を補給したことで 自信を得た大本営は12月8日の大詔奉戴日(開戦記念日)に合わせ 攻勢に出ることを決定

現在レイテ上空は 六対四で我軍優勢である

まずブラウエン 飛行場を奪回する

『天号(テ号)作戦』空挺隊降下 『和号作戦』16、26師団の地上攻撃



同じ頃、長引くレイテ攻略に 業を煮やしたマッカーサーは 一度不要と断った予備兵力の 77師団を呼び戻し

5日には 次のミンドロ島へ 上陸予定だった



一気にケリをつける 総攻撃を計画していた

12月6日 35軍の攻勢は開始された

『和号作戦』では鈴木軍司令官自ら 26師団と共に山越えの道へ入っていった

天号(テ号)作戦 日本で最優秀の装備を持つ 第2挺身団(高千穂空挺隊)が降下、守備の薄い飛行場の1つを奪取に成功する

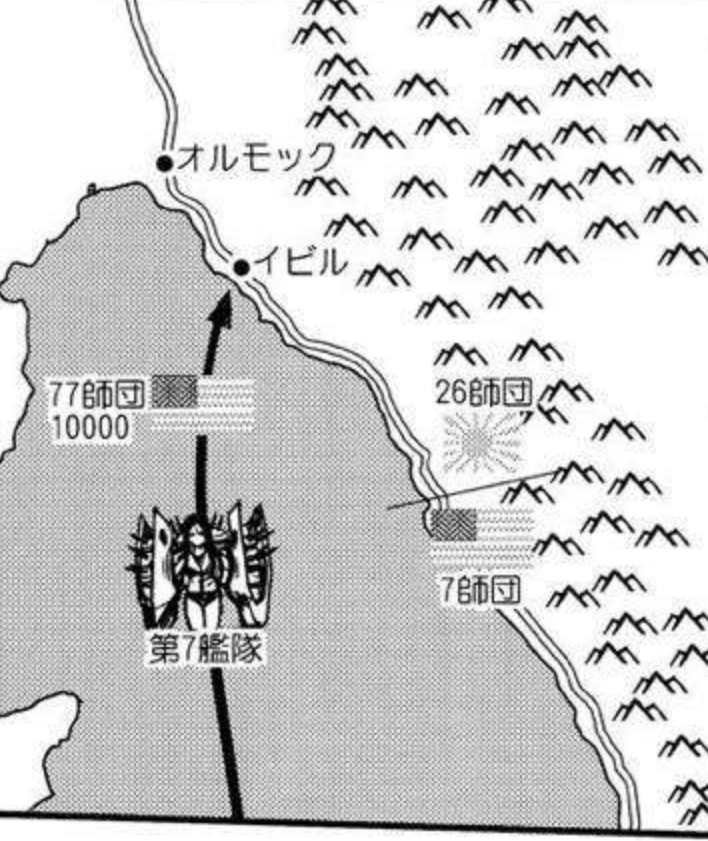
和号作戦 16師団は残り3000が攻勢し空挺隊と合流 26師団は山越えが進まず攻撃できず



第1騎兵師団が 攻撃に向かうも 山中ですれ違い 留守を付かれる形となる

ダムランの戦い 11/23~12/7 装備を得た26師団が北上してきた米軍へ夜襲を繰り返し攻勢

ところが同日 米軍の大船団が オルモック灣に現れて艦砲射撃を開始、翌7日に『77師団』が逆上陸を開始した



第4航空軍は米上陸船団に 特攻で反撃を開始、『呑龍』と『隼』60機(半数護衛)の特攻隊が数派に分かれて 次々に突入した



駆逐艦 撃沈『マハン』『ワード』 損傷『ハートン』『リットル』『ラムソン』

日本の攻勢に合わせ 再び輸送船4護衛艦6という 4次以来の大船団を組んで 『第8次多号輸送』が行われた

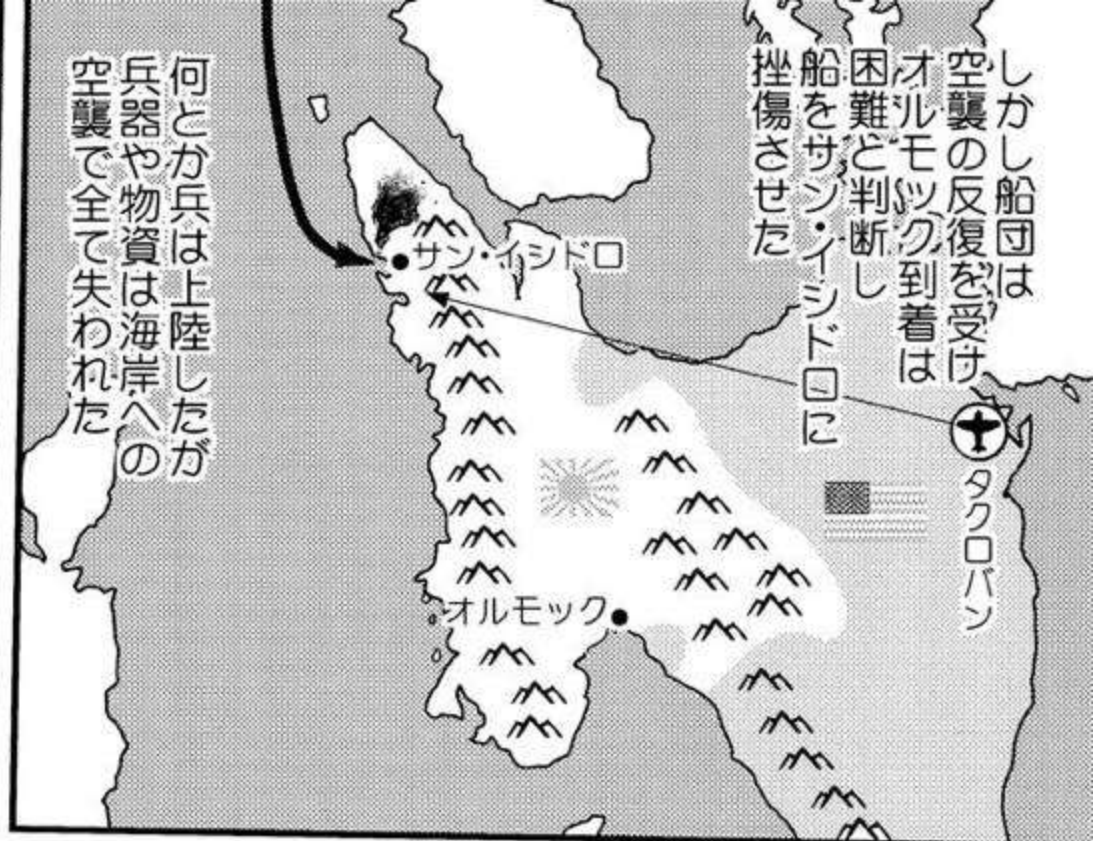
全国から選抜された優秀者と 最新の装備・重火器を備えた 特殊部隊『68旅団』4千という 強力な援軍を乗せていた





部隊が入ったのは  
武装ゲリラの支配地域で  
その後散り散りとなり  
百人以下でバシザイ突撃が  
何度か行われた以外不明の  
『消えた部隊』である

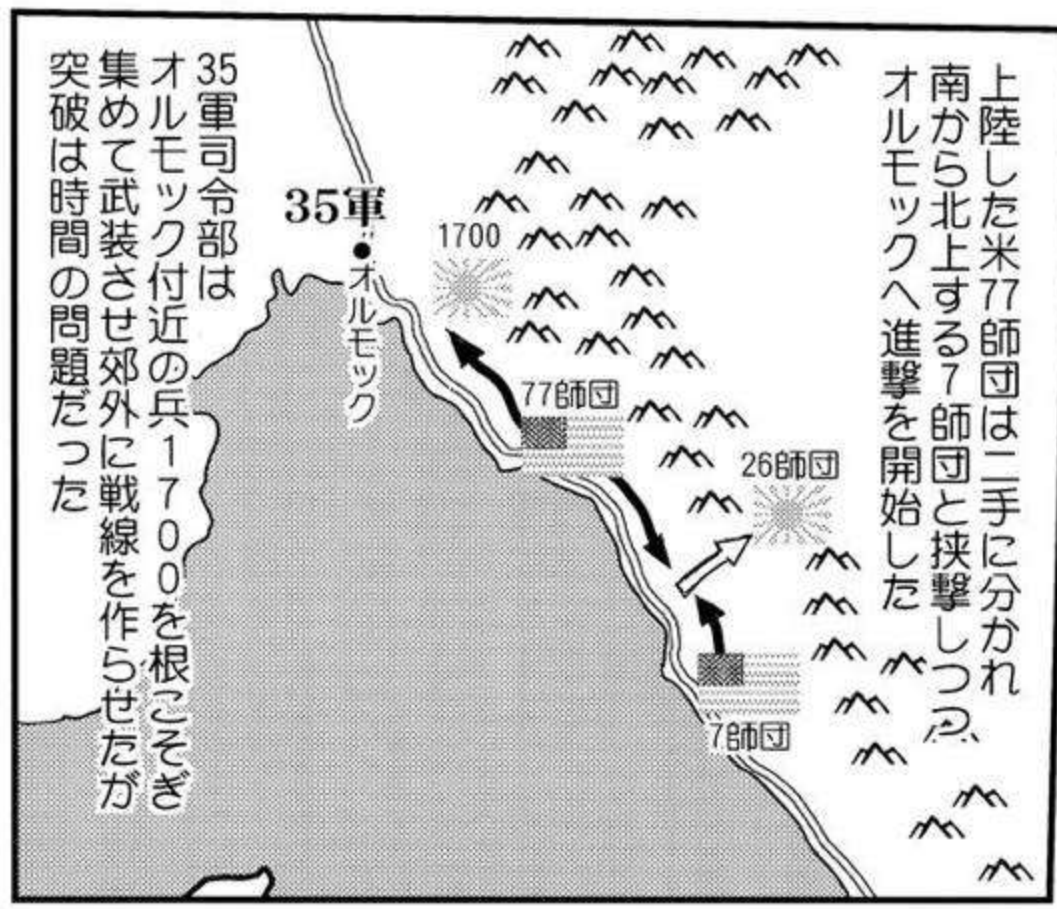
小火器のみの裸上陸となった  
精鋭68旅団は通信機器も全て失い  
味方前線へ向けて山道に入った後  
消息を絶った



何とか兵は上陸したが  
兵器や物資は海岸への  
空襲で全て失われた

しかし船団は  
空襲の反復を受け  
オルモック到着は  
困難と判断し  
船をサン・イシドロに  
挫傷させた

**レイテ地上戦は  
この逆上陸で  
決着がついた**



35軍司令部は  
オルモック付近の兵1700を根こそぎ  
集めて武装させ郊外に戦線を作らせたが  
突破は時間の問題だった

上陸した米77師団は二手に分かれ  
南から北上する7師団と挟撃しつつ  
オルモックへ進撃を開始した



何だと！  
すぐに戻る

米軍の逆上陸に  
日本軍は衝撃を受け  
鈴木司令官は『和号作戦』の途中で  
急いでオルモックへ向かった



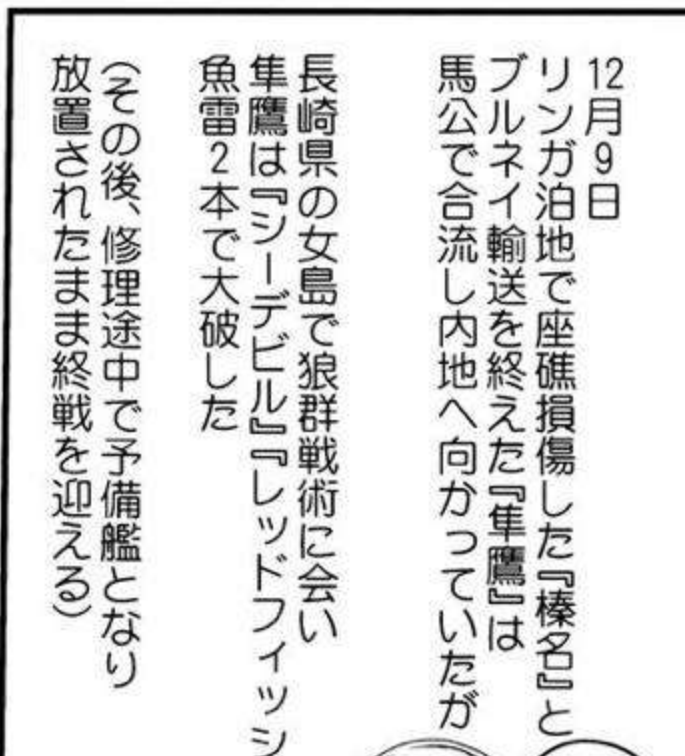
びよん

護衛には  
4次輸送以来の一等駆逐艦  
『卯月』『夕月』も付けられた

山下ガルソン防衛のために  
満州から呼んだ精鋭『8師団』4千  
対戦車肉攻撃兵器を大量に  
保有する『カメテス支隊』1200  
海軍陸戦隊の強襲上陸部隊400  
さらに水陸両用戦車10

**『第9次多号輸送』**

12月9日 現場と方面軍と大本営で  
戦況認識のズレが開くなか  
反撃のため大船団(輸送6護衛5)で  
再び強力な増援輸送が行われた



12月9日  
リンガ泊地で座礁損傷した『榛名』と  
ブルネイ輸送を終えた『隼鷹』は  
馬公で合流し内地へ向かっていたが  
長崎島の女島で狼群戦術に会い  
隼鷹は『シーデビル』『レットフィッシュ』の  
魚雷2本で大破した  
その後、修理途中で予備艦となり  
放置されたまま終戦を迎える



二手に分かれて  
遅い商船はパロンポン  
(オルモック20km手前)  
に上陸させるびよん

しかし今度も  
到着前から次々と空襲を受け  
まず輸送船『美濃丸』が沈没

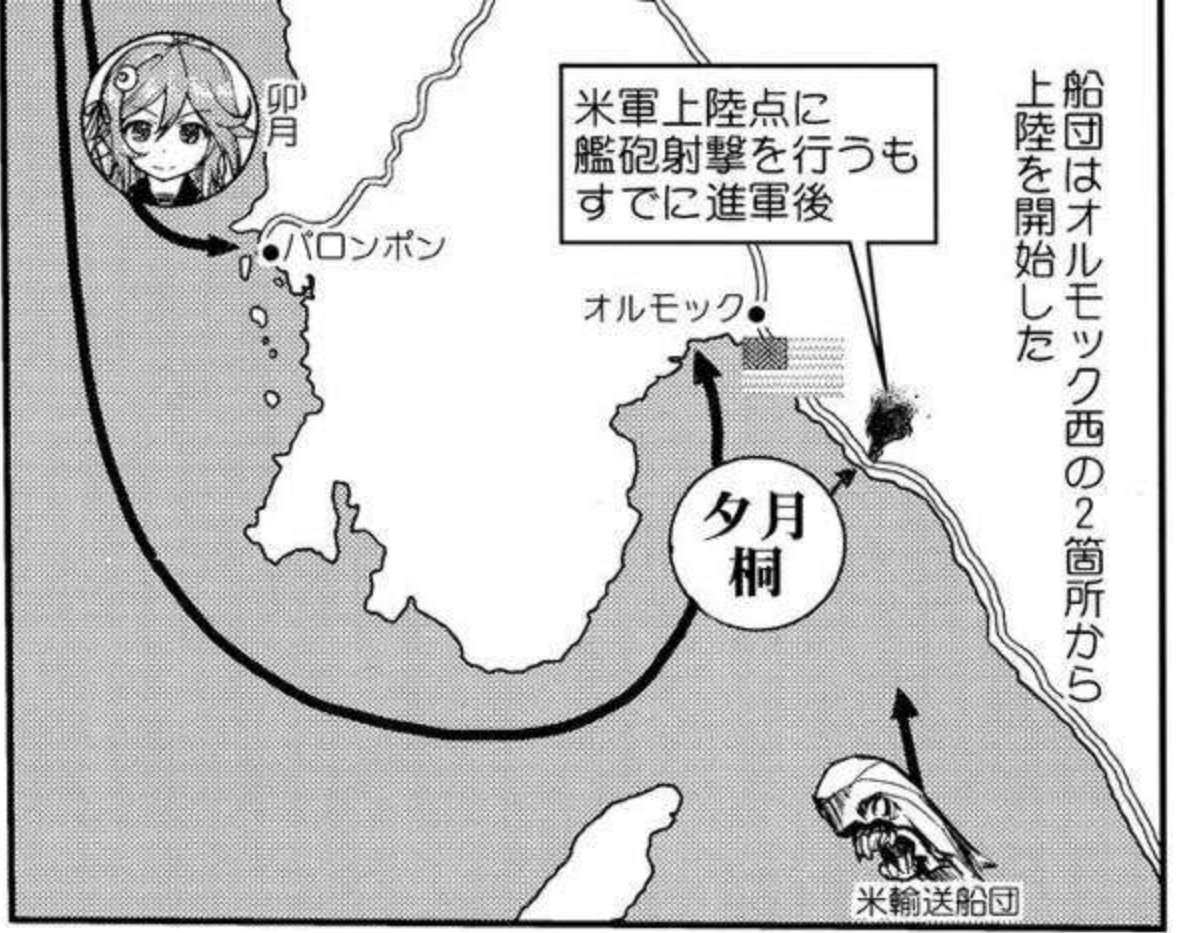


隼鷹  
しっかり

やられたなあ  
当分ドック  
入りですわ

船団はオルモック西の2箇所から上陸を開始した

米軍上陸点に艦砲射撃を行うもすでに進軍後



上陸部隊の一部が連絡のため直接オルモックへ向かったがすでに米軍が占領して上陸点から弾が飛んできた

射つな射つな

馬鹿モン友軍を射つ奴があるか



卯月はパロンポンの揚陸が終わると夜22時に単独でオルモックへ突入

睦月型はもう二人きりぴよん

夕月助太刀するびよん!



オルモック西2kmへの戦車を含む上陸部隊は米77師団の集中砲撃を受け物資が次々と焼失した



やむなく揚陸は途中で切上げられまた兵だけの裸上陸となった

この時、同時に米輸送船団もオルモックへ向かっており鉢合わせした『夕月』『桐』と撃ち合いが生じた(双方被害なし)

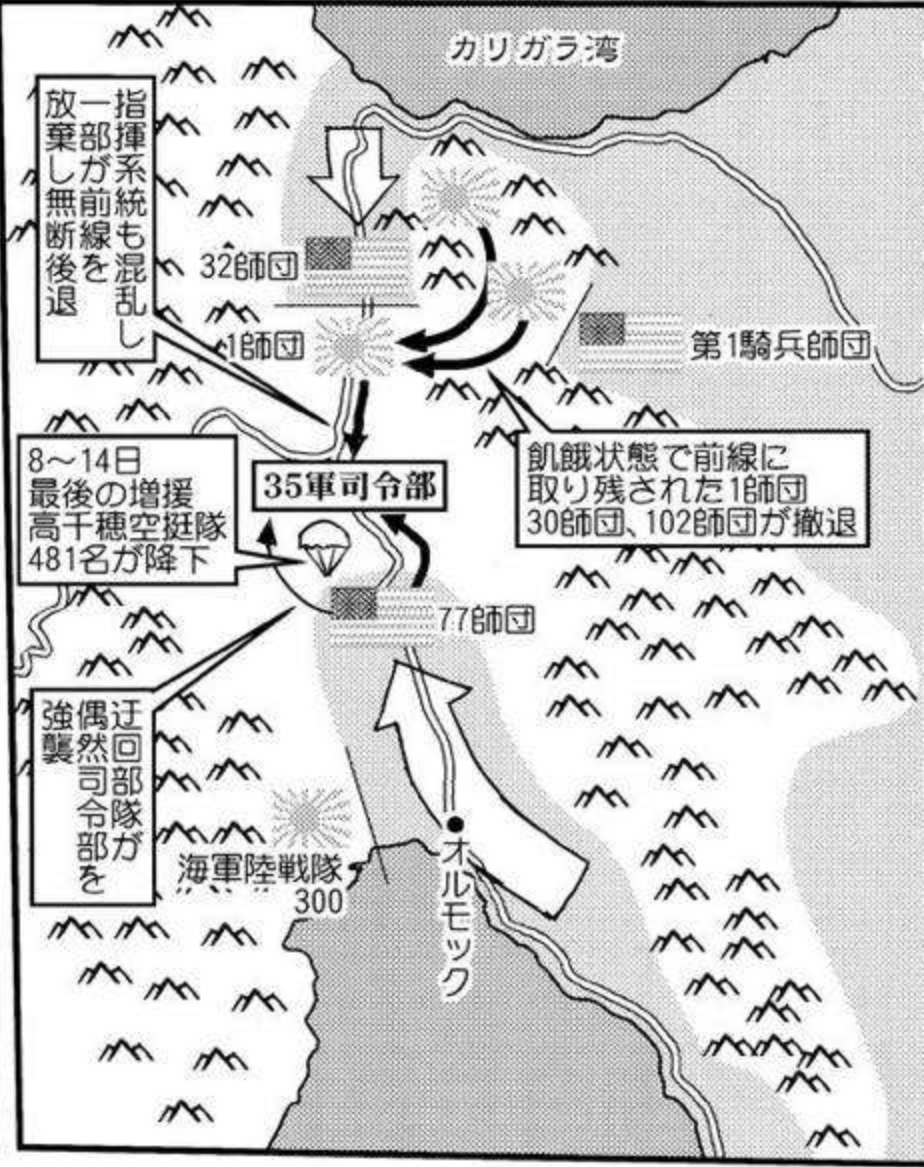


後から湾内に突入した『卯月』はPTボートをレミタールで発見できず2本の魚雷を受け轟沈した

日が明ける前に帰途に付いた船団は追撃でコルセア他43機の空襲を受け『夕月』と輸送船1隻が沈没した睦月型はこれで全滅した

第9次多号輸送はすでに敵が奪ってる場所への揚陸という冗談のような展開となった

一方レイテ島の地上戦は崩壊の時を迎えていた



飢餓状態で前線に取り残された1師団30師団、102師団が撤退

指揮系統も混乱し一部が前線を放棄し無断後退

8~14日最後の増援高千穂空挺隊481名が降下

迂回部隊が偶然司令部を強襲

服部作戦課長はそれでも勝つための作戦を考え続け『第10次多号輸送』が準備された

第10次輸送護衛『清霜』



だが現地ではオルモック戦から北へ転進を続けた軍司令部が19日にとつと米軍先鋒の急襲を受けた

軍司令部の敵襲を受けた時の無統制ぶりを十分拝見す

参謀達は反撃は愚か思考力を失って言葉も出さずサッパリだらしががない



第1師団の土居参謀

司令部はパニックとなり各人散り散りに西方へ逃走し35軍の組織的抵抗はあつけない終わりを告げた

敵兵だ西へ退避

12月13日

日本に新たな衝撃が走った

百数十隻の船団がパナイ島西方海上を北上中!

ルソン島へ向かっているようです

マツカーサーはレイテ占領を待たずに次の上陸作戦を開始した





船団にはすぐに  
特攻隊11機が突入

軽巡「ナツシユビル」  
駆逐艦「ハラデン」に命中した

特にナツシユビルでは上陸部隊の  
幕僚を多数吹き飛ばす大損害を与え  
2隻はそのまま引き返した

12月14日  
ハルゼーの機動部隊が  
再びルソン島  
東方海上に現れた



エセックス級空母はこれまでの  
艦戦38艦爆36艦攻18から  
艦戦73艦爆15艦攻15と  
戦闘機の比率を大幅に増やしていた

カミカゼは  
攻撃に入る前の飛行中に  
撃墜するしかない



12月14日16日の3日間  
ハルゼーは  
述べ1671機を出撃させ  
上陸作戦を支援した

ルソン島の  
飛行場上空を  
戦闘機で封鎖しろ

カミカゼを  
離陸させるな

飛び立ったら  
全て撃墜するんだ

米軍の徹底した上空封鎖に  
日本軍は陸海軍合わせ  
2と300機(内特攻機100)が  
次々と撃墜または地上撃破された  
米軍の損害は、撃墜27事故38だった



離陸して攻撃にこぎつけた少数の  
特攻機も船団が広いスルー海に  
出た後はこれも戦闘機を増やした  
「クワイ2」によって撃墜され

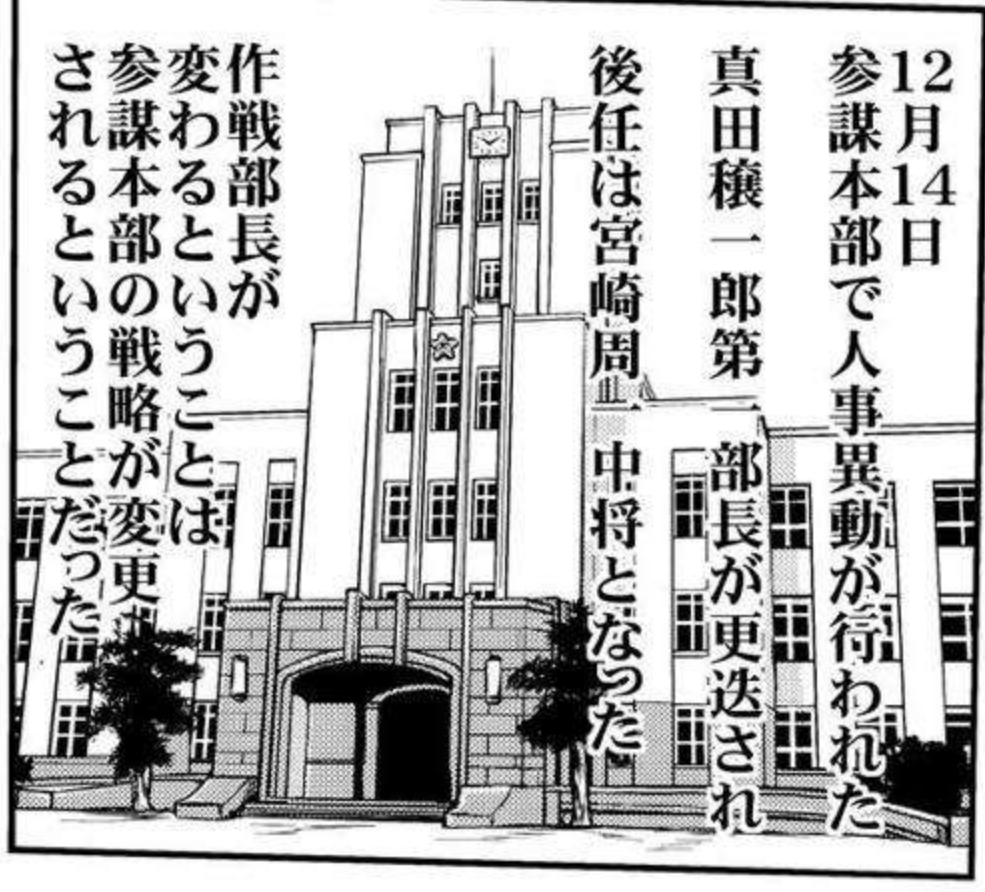
陸海軍の  
全力を挙げた航空攻撃は  
今度はほぼ戦果なしに終わった



レイテはもう  
誰が見ても無理だ

それどころか敵は  
ルソンに迫っている

梅津美治郎  
参謀総長



12月14日  
参謀本部で人事異動が行われた  
真田穰一郎第二部長が更迭され  
後任は宮崎周中中将となった

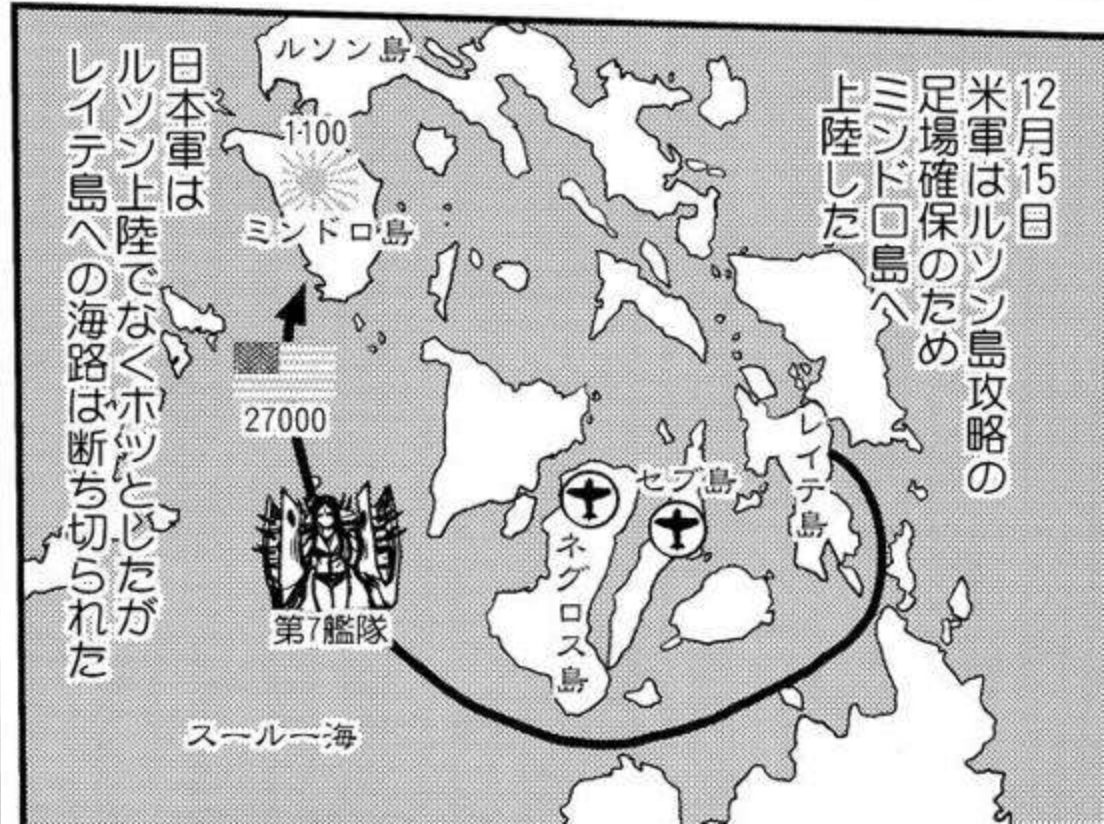
作戦部長が  
変わるといふことは  
参謀本部の戦略が変更  
されるといふことだった



宮崎作戦部長はすぐにマニラへ飛び  
フィリピン戦の惨状を見て  
決戦は本土以外  
不可能と判断した

本土で一度  
米軍を撃退するには  
50個師団150万人の  
戦力化が必要だ

以後、他の戦場は全て本土決戦  
準備のための時間稼ぎという方針になる



12月15日  
米軍はルソン島攻略の  
足場確保のため  
ミンドロ島へ  
上陸した

日本軍は  
ルソンの上陸でなくホツとじたが  
レイテ島への海路は断ち切られた

1100  
27000  
第7艦隊  
スルー海



12月18日 新部長の下で服部課長は  
『決号作戦』の中止を達言し  
大本営は新たな命令を出した  
『ルソン島は決戦思想より持久  
思想を旨とす』

『35軍は永久に抗戦し国軍将来に  
おける反抗の支障たるべし』

14方面軍  
持久戦  
35軍  
永久抗戦

レイテは放棄し  
ルソンは決戦から持久へ

# 海軍に続き 陸軍の『決戦』も失敗に終わった

皇居



何も知らない小磯首相は先に天皇に奏上した杉山陸相から廊下で決定を知らされた

レイテは放棄が決まったぞ

何ッ そんなバカな

お前は国民にレイテが天王山と言ってきたがこのことをどう説明するつもりか



ぜ…善処いたします

しかし…首相に相談なくこのような重大事が決められるようではやり難うございます…

俺はお上に好かれていないようだ

何か奇跡でも起きない限り内閣も直に終わるだろう

翌月に米軍がルソン島に上陸すると小磯首相の発言はますます苦しくなり戦意高揚に努める姿はピエロど化じた

レイテだけではない比島の戦い全体が『決戦』なのだ!



12月7日 呉



ん?

今揺れた?

揺れたな



## 『昭和東南海地震』

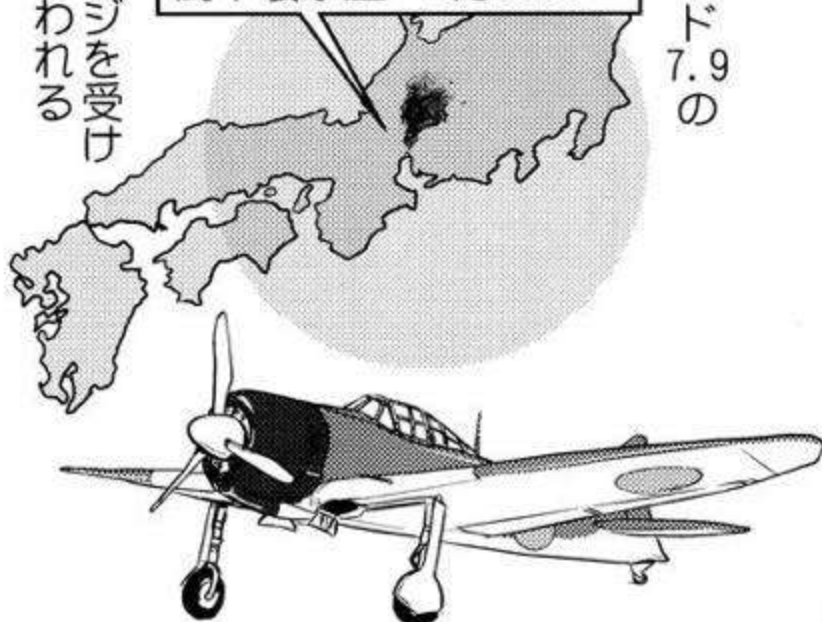
13時36分 東海地方をマグニチュード7.9の大地震と津波が襲い、帯に甚大な被害をもたらした

愛知県にある三菱・中島の航空機工場が倒壊し、工員190名が死亡した

軍は検閲と箝口令で徹底的に被害情報を隠したが

地域の航空産業全体が大きなダメージを受け日本の軍用機生産は半減したとも言われる

死者・行方不明者 1223  
倒半壊家屋 9万6000



12月11日 世界最大の潜水艦『伊400』就役



先輩  
こんにちは

でかッ

『伊400』の航続距離は桁外れの6万7千km  
戦闘爆撃機『晴嵐』3機を搭載し  
山本五十六がニューヨークやワシントンを直接爆撃するために作らせたと言われる

東京

3万km

超大型戦略爆撃機『富嶽』や『風船爆弾』と共にアメリカ本土攻撃兵器の一つである

この後に竣工する同型の『伊401』  
少し小型で晴嵐2機を搭載する『伊13』『伊14』



これら大型潜水艦4隻で『第1潜水隊』を編成した

虎の子の秘密兵器であるが戦局も変わり運用の再検討が行われた

今となつては爆弾を数発落としても効果は薄い満州の石井部隊が研究しているという生物兵器を投下してはどうか

小沢治三郎  
電令部次長

梅津美治郎  
参謀総長

そんなことをしたら世界中を敵に回すことになる！

数ヶ月の訓練の間に攻撃目標はアメリカ東海岸からパナマ運河最後には現実的なウルシー泊地となり

東南海地震で晴嵐完成が遅れて訓練ばかり...

攻撃方法も爆撃から特攻へ変更された

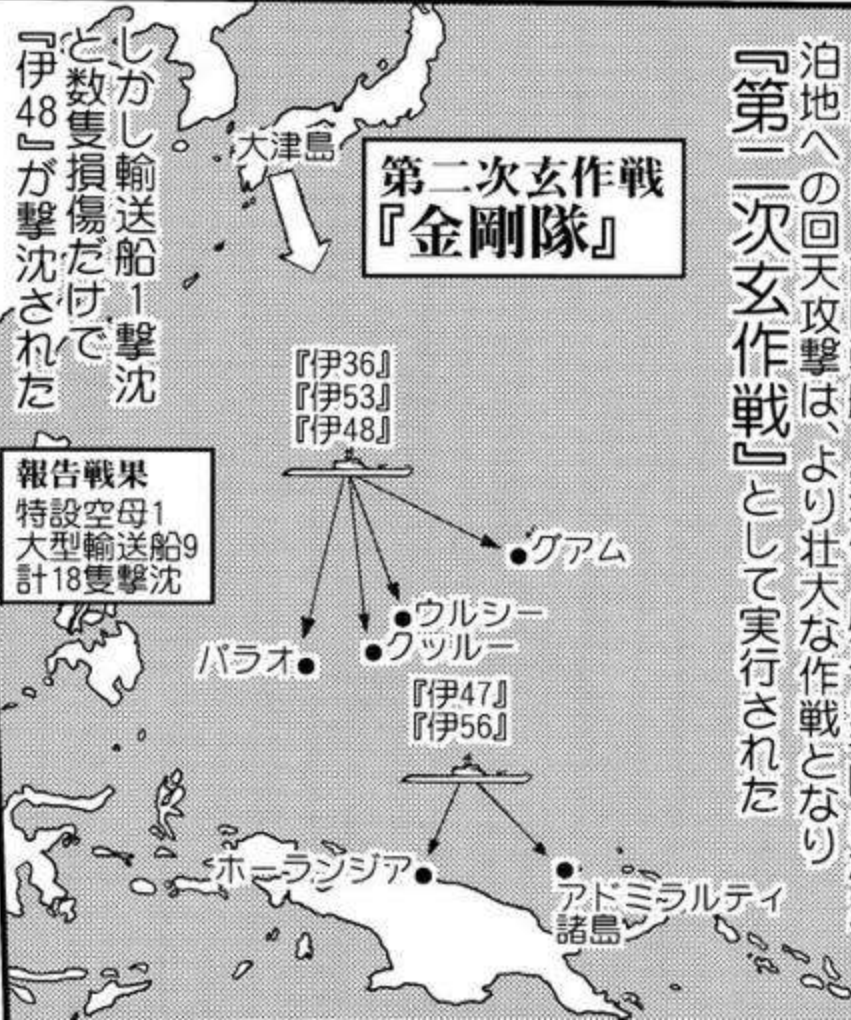
陸軍は海軍に決戦の方針変更を打診した

だが話し合いは決裂

水上部隊も航空艦隊も全て犠牲にしてるんだ  
今さら変更など受け入れられない！  
『捷号作戦』は続行する

12月14日 前回戦艦3隻沈没で成功と判断された泊地への回天攻撃は、より壮大な作戦となり『第二次玄作戦』として実行された

第二次玄作戦『金剛隊』



しかし輸送船1隻沈没と数隻損傷だけで『伊48』が撃沈された

報告戦果  
特設空母1  
大型輸送船9  
計18隻撃沈

12月15日  
大西が軍令部に直談判した追加の特攻隊150機が台湾で訓練を済ませフィリピンに到着した

第1連合基地航空部隊は再び大規模な特攻作戦が可能となった



第一航空艦隊司令長官  
大西瀧治郎中将

自然災害に襲われたのは日本だけではなかった

12月18日

長官 進路上にタイフーンが近づいています

構わんタイフーンなど突っ切れ



だが自然はハルゼーが思う程甘くなかった風速55mの『ヨララ台風』の真中に突っ込んだ米機動部隊は大混乱となった



波に逆らうな漂流しろ!

38任務部隊は大損害を受け上陸支援を打切つてウルシーへ引き上げた

沈没 駆逐艦『ハル』『スペンズ』『モナハン』  
損傷 空母8 巡洋艦1 駆逐艦10 補助艦3  
航空機 183機

なんてこった ジャップにやられたより余程酷いじゃないか

その後ハルゼーの判断を巡り査問委員会で更迭が検討されたが国民人気を考慮して不問となった

海軍はフィリピンへの戦力投入を続けた

12月17日 大破した『隼鷹』に変わり『雲龍』がフィリピン輸送に出発した

特攻兵器人間ロケット『桜花』20  
第一挺身集団(空挺部隊)の一部  
軍需物資



初任務 頑張ります

だが二日 東シナ海で隼鷹を襲った『レッドフィッシュ』から魚雷2本を被雷し積荷もろとも海没した



雲龍!

もう南方航路はまともに航行できないな

陸軍中央の方針転換は内々に行われた事だったので

在サイゴン南方軍 寺内元帥

南方軍はまだルソン島に関しては強気の姿勢を崩していなかった

ミンドロ島へ兵1万を逆上陸させ飛行場を奪回せよ



今度は山下も反対した

今さら 大部隊の海上輸送など成算なし



海軍軍令部は『捷号作戦』を続行し次の上陸地点へ殴り込むためすでに残る艦隊の集結を命じていた

リンガ泊地で戦闘に耐える艦は全て仏印のカムラン湾へ進出せよ



水上部隊でほとんど唯一の戦力となっていた『第5艦隊』と『四航戦』は14日までにカムラン湾に集結した



そこへ米軍のミンドロ島上陸で仏印空襲と南シナ海の危機が高まったため軍令部も陸軍に逆上陸を強く要請した

だが現場では山下は逆上陸しないと考え軍令部の顔を立てるため形ばかりの『捷号作戦』を命じた

南西方面艦隊 大川内中将

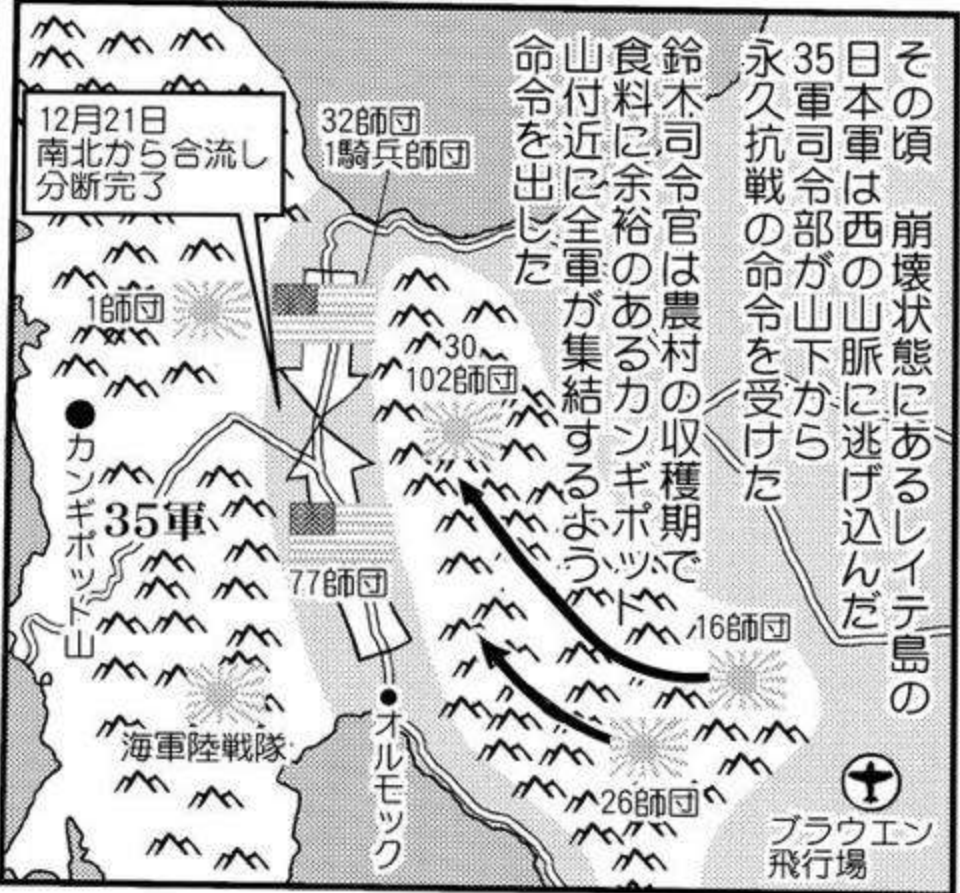
成算はないが仏印で待機のまま爆撃されて沈没するくらいならさっさと殴り込みを実行した方がいい

逆上陸の日時も分かってないのに殴り込めって

とにかく命令なので足の速い艦だけで奇襲を掛けましょう 戦艦は待機してください

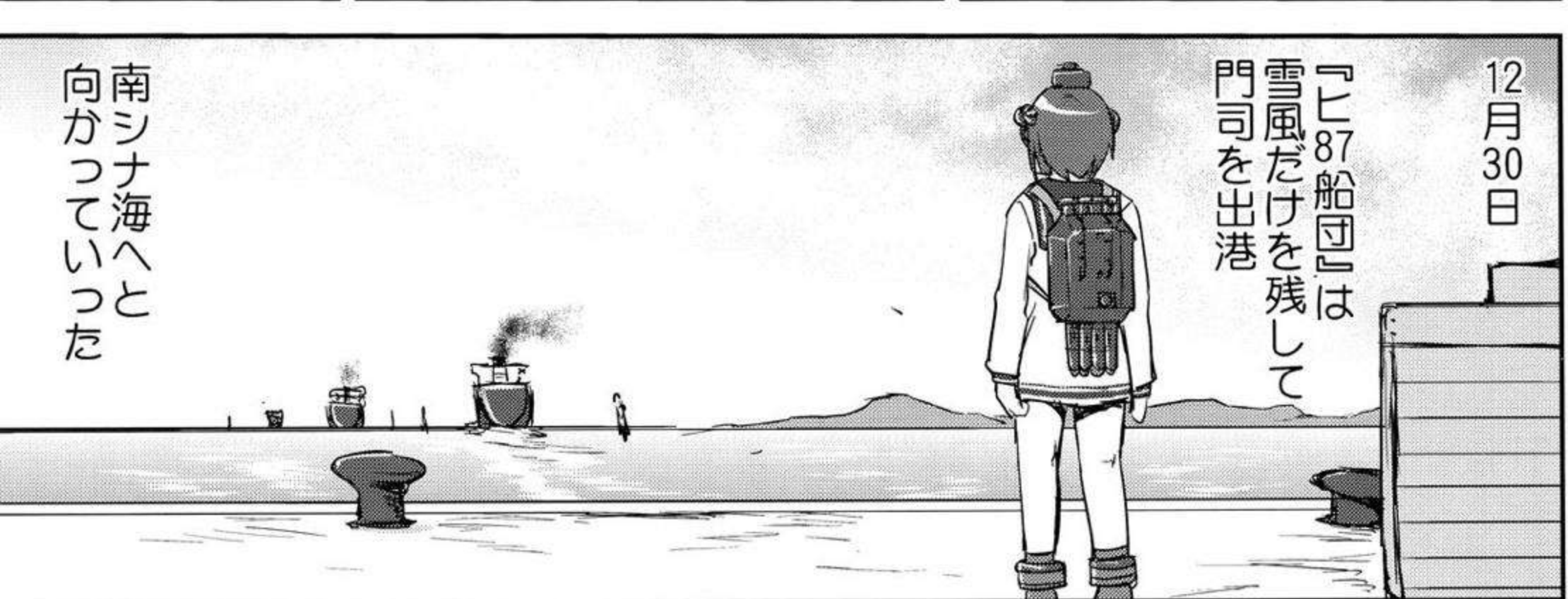






マツカーサーはクリスマスをもって  
レイテの戦闘終結を宣言したが  
島にはまだ2万の日本兵が残っていた

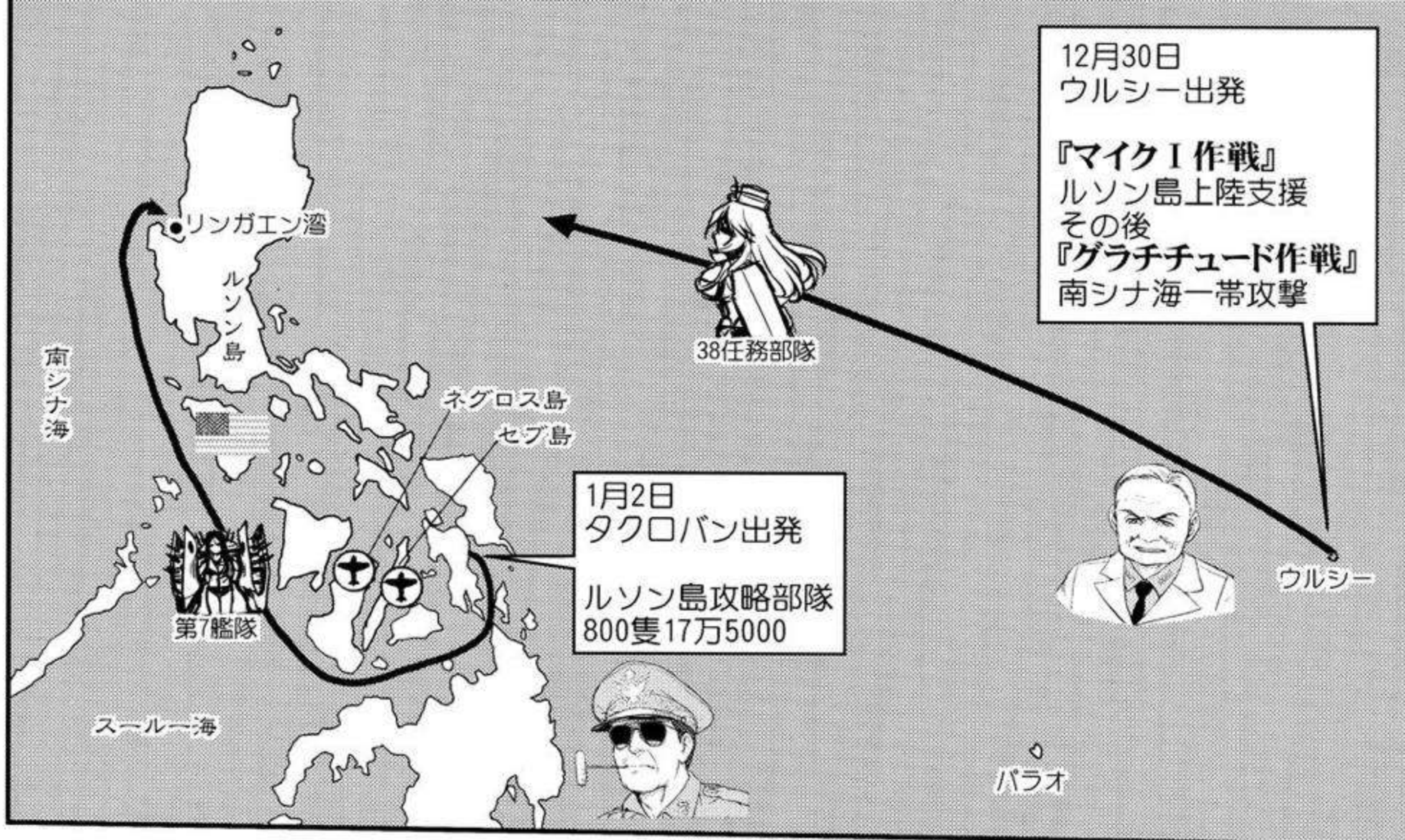




# そして遂に日本の石油は底をついた

1944年の石油消費398万トン 南方石油生産499万トン(うち国内輸送67万トン)

1945年1月 日本の石油在庫 あと67万トン



年末年始の時間を同じくして  
米軍はフィリピンの本命  
ルソン島攻略を開始した



大西はこれに対し戦力を全て注ぎ込み、今までで最も激しい特攻を仕掛けた



富永もついに『疾風』まで特攻に投入した



さらに9日深夜には『陸軍海上挺身戦隊』がマルレ艇40、70隻でモーターボート特攻を行い2名を残し全員戦死したが



湾内の船舶4隻を撃沈、6隻を損傷させた

1月6、10日日本の特攻は最高潮を迎え、合計200機が次々にリンガエン湾へ突入。米艦隊は大混乱に陥った



もう一度ルソン島の上空を封鎖しろ！

米軍は『38任務部隊』やレイテ島やミンダナオ島の陸軍『第5空軍』も総動員しフィリピン上空の確保に全力を尽くした



だが前回の轍から特攻機は森の中などに隠してあり

夜間に穴の空いた滑走路や道路を埋めて明け方には次々出撃した

米軍は同士討ちを避けるため低空での空戦や艦隊の水平射撃が制限され

これ以上高度は下げられない

近すぎて制空権の意味がない

短時間に低空のまま湾内に突入する特攻機を撃墜するのは困難だった



ルソン島の陸海航空隊は最後は教官も訓練生も



全員飛行機に乗り込んで特攻していった

1月10日までの米軍の損害は恐るべきものとなった

沈没24隻  
駆逐艦『ロング』『ホーヴィ』  
掃海艇や輸送船など  
大中破30隻  
戦艦3重巡2軽巡3護衛空母4  
駆逐艦9輸送船など  
小破37隻  
駆逐艦11他



米空母がいなくなりました！出発します

1月15日ヒ87船団は舟山群島を再出発して台湾を目指した



船団は途中で米潜の襲撃を受けて分散したが

1月7日、『龍鳳』隊は基隆へ到着し桜花の輸送は成功した

この後内地へ戻る『龍鳳』隊は台湾で『ヒ87船団』と別れた

1/5 ウルフバック  
『クィーンフィッシュ』  
『ピクーダ』  
『パーブ』  
の襲撃を受け分離



1月9日

『ヒ87』は高雄で停泊中に空襲を受け輸送船1隻を撃沈されたが

ここからの護衛『第7護衛隊(海防艦5)』を加えてシンガポールへと出発した

だが日本軍の猛攻もここまでだった

1月8日 主力の『第二航空艦隊』は遂に戦力0機となり解隊された

大西に航空機を全て使われてしまった

大西は引き続き『第一航空艦隊』で台湾から特攻を行うためにフィリピンを発った

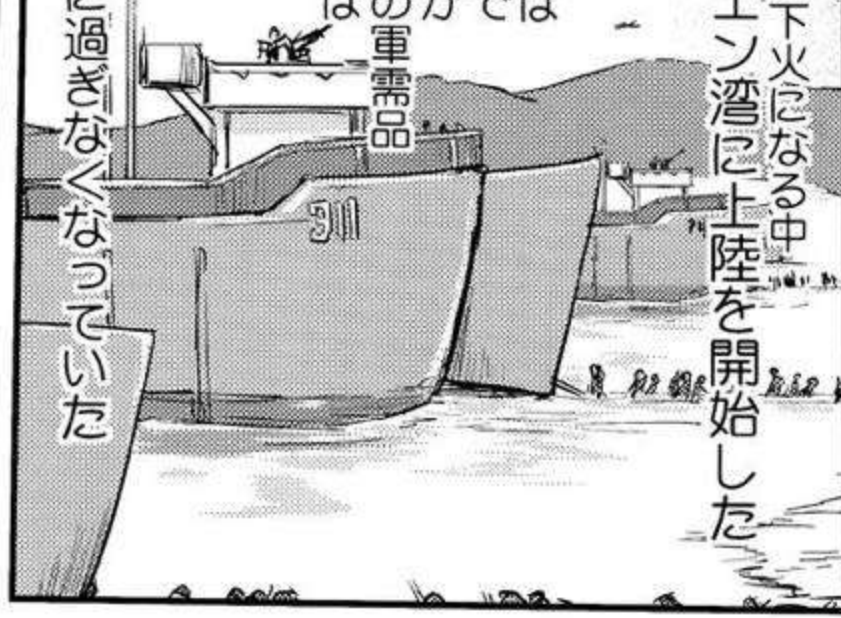


1月9日 特攻が下火になる中、米軍はリンガエン湾に上陸を開始した

ルソン島の

日本軍(軍属含む)は13万から25万にまで膨れ上がっていたが最良の部隊と大量の軍需品空と海の決戦戦力はすでにレイテ戦で失っており

ルソンの戦いは大規模な掃討戦に過ぎなくなっていた



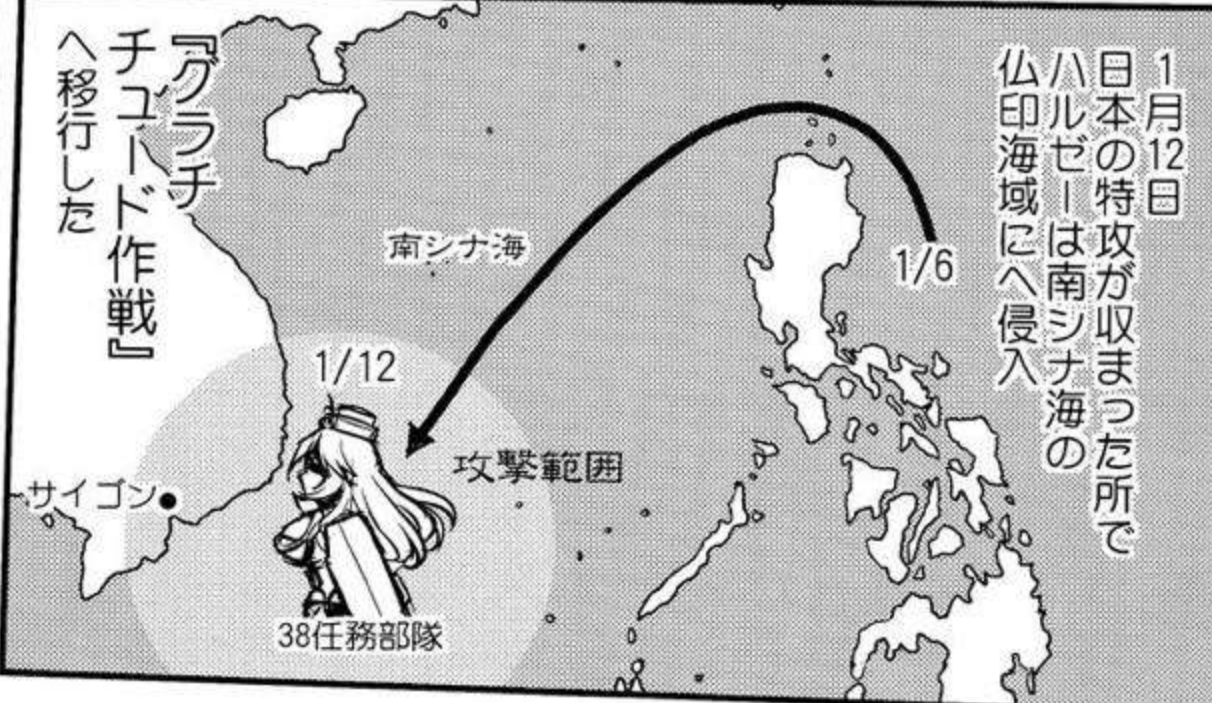
1月10日 『第4航空軍』も最後の35機が特攻を終えると富永は台湾への移動許可を求めたが南方軍は許さなかった

体調が悪くなったので辞任したい

富永はこれまで大本営の持久転換や山下の北部への移動を批判し、マニラでの決戦を強硬に主張していた



1月12日 日本の特攻が収まった所でハルゼーは南シナ海の仏印海域に侵入



『クラチチユート作戦』へ移行した

『イセ』と『ヒュウガ』は見つからんのか

それなら船と港を片っ端から攻撃しろ



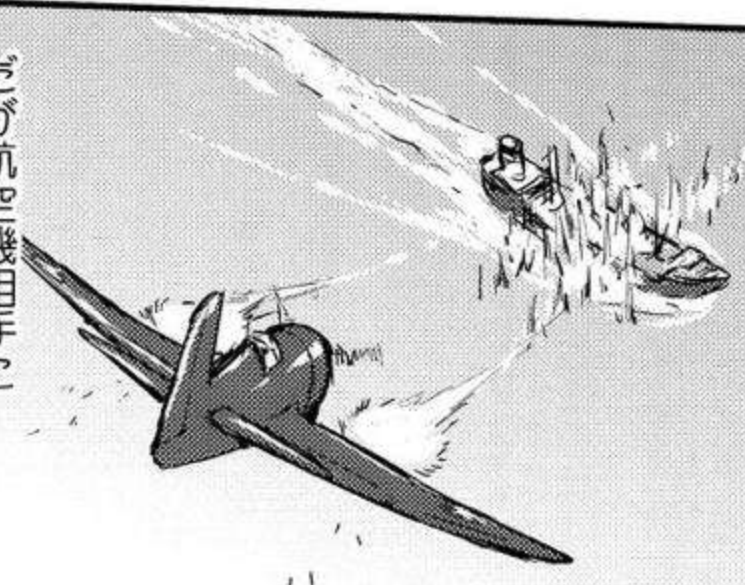
もはや前に立ちふさがる相手は誰もいない

米機動部隊は目に入ったありとあらゆる目標を次々と攻撃した

相手が潜水艦の場合はまだ先に発見して躲したり強引に突っ切るなど突破できる可能性があった

だが航空機相手に躲したり振り切ったりするのは不可能である

米機動部隊はまるで「スチームローラーのよう」に(軍令部猪口参謀)通った後の日本艦船を一掃していった



タイコンデロガ

エセックス

9

ハルゼーが南シナ海の攻撃を始めた日『L86船団』は南方の重要戦略物資を満載し

新設された船団護衛専門の艦隊『第101戦隊』に護衛され仏印から日本へ向かっていた

右側だけを警戒すれば済むように左岸から2kmを航行

ヒ86船団 巡洋艦『香椎』 海防艦5 輸送船10

壊滅

(海防艦3隻だけが逃げ延びた)



『E86船団』の全滅を知り  
船団は再び近くの港へ退避した



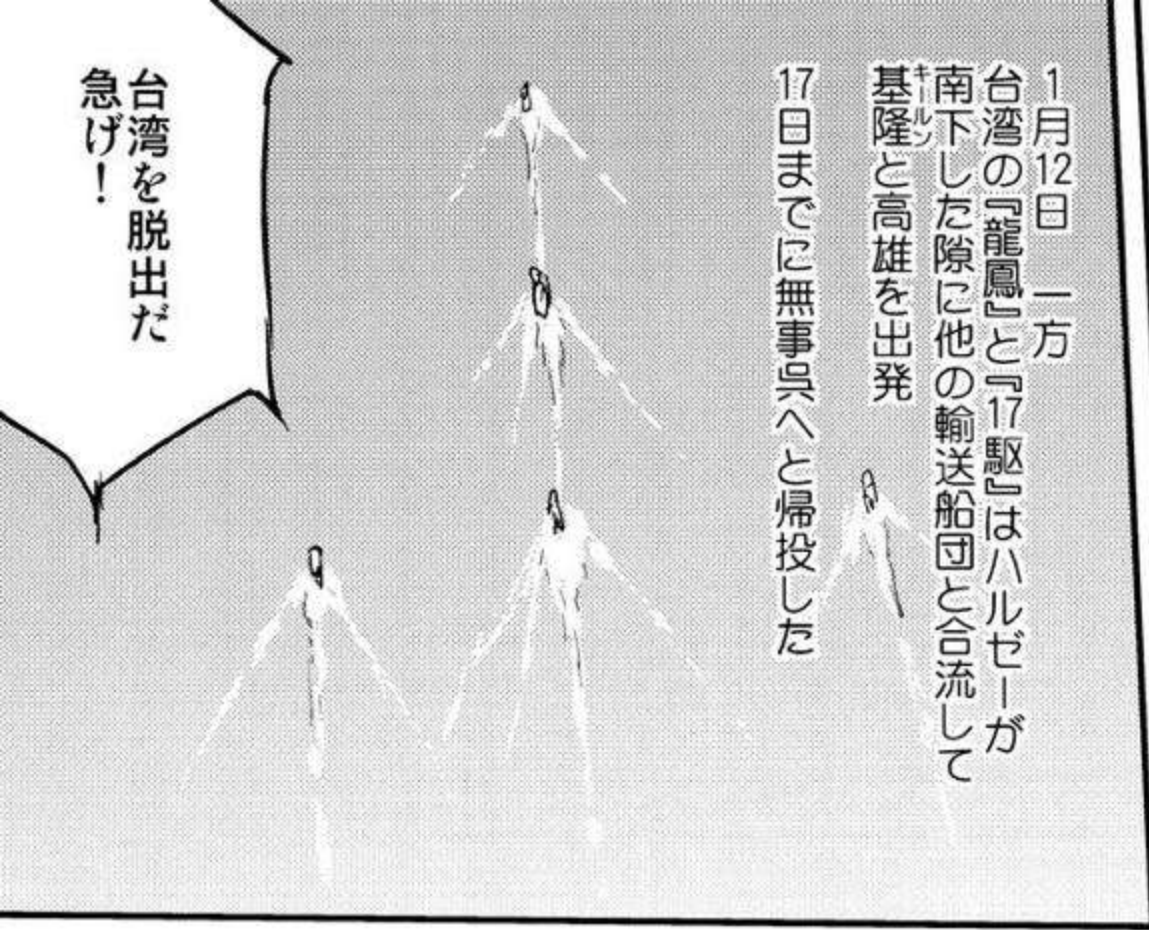
海上護衛総司令部  
大井篤参謀

『E87船団』は一時  
香港へ退避せよ

1月12日 一方  
台湾の『龍鳳』と『17駆』はハルゼーが  
南下した際に他の輸送船団と合流して  
基隆と高雄を出発

17日までに無事呉へと帰投した

台湾を脱出だ  
急げ!



1月15日、16日 仏印から北上した  
ハルゼーは次は香港を空襲した



湾内の船は必死に対空機銃で  
応戦したが『E87』は給油艦『神威』と  
タンカー2隻を撃沈された

残るタンカーはわずか2隻となり  
『E87』は壊滅の危機に瀕した

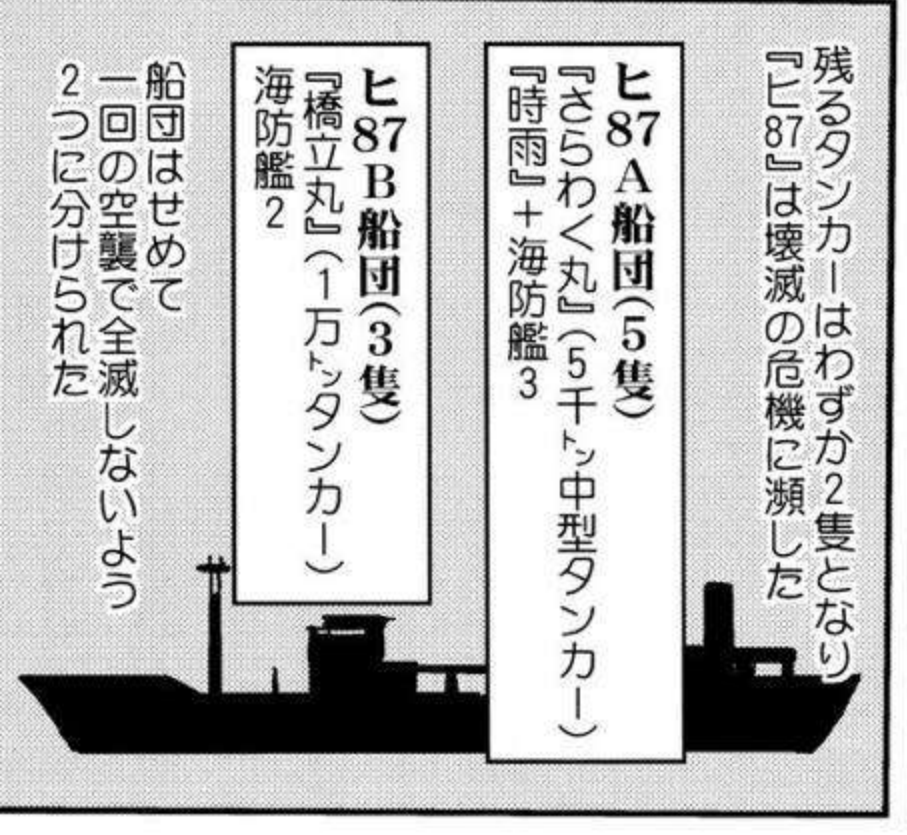
ヒ87A船団(5隻)

『さらわく丸』(5千トン中型タンカー)  
『時雨』+海防艦3

ヒ87B船団(3隻)

『橋立丸』(1万トンタンカー)  
海防艦2

船団はせめて  
一回の空襲で全滅しないよう  
2つに分けられた



行こう

ここに居ても  
やられるだけだ



ええ!?  
今出るんですか!  
すぐ見つかります

発見されたら  
とても逃げられません  
終わりです

大丈夫

ボクは  
運がいいんだ



1月17日  
『E87A船団』が香港を出港すると  
ハルゼーは空襲を切り上げて北上し  
時雨達は発見されずに  
米機動部隊の警戒範囲を  
抜けることに成功した

ははッ

まだ捨てたもん  
じゃないね

ふー海南島  
着きました

19日に海南島に到着  
第7護衛隊の司令部を降ろして  
比較的 안전と言われる  
サイゴン以南の海域に入った



1月22日 船団は目的のシンガポール直前  
マレー沖でB24に発見され  
24日には米潜の待伏せを受けた



ウルフバック  
『バスゴ』  
『ハートヘッド』  
『ブラックフィン』

左舷に  
『黒キモノ』発見!

潜水艦だ  
誰も気づいてない!

海防艦13号  
ではないか

13号の  
位置じゃない  
チツ

時雨は単艦で『バスゴ』攻撃に  
向かったが丁度タンカーを狙っていた  
『ブラックフィン』の射線に入ってしまった



し：  
時雨さん!

潜水艦がいるわ  
対潜用意!

……一隻じゃ  
ないぞ：  
気をつける

下半身の  
感覚がない：  
は：は：

さすがに運を  
使い果たしたかな：

『呉の雪風』が  
上って言われ  
ちやうな：  
ちえっ：

7時15分  
『時雨』は魚雷1を  
受け10分で沈没

白露型はこれで全滅した



26日 『ヒ87船団』はタンカー1隻(護衛3)  
だけがシンガポールへ辿り着いた

1月21日まで南シナ海を  
荒らし回ったハルゼーは  
25日にウルシーへ帰投した

38任務部隊が1月に沈めた  
輸送船は83隻28万3千ト  
同時期に潜水艦も  
22隻9万4千トを沈めた

|          |    |       |        |
|----------|----|-------|--------|
| 1月12日    | 仏印 | 輸送船35 | 13万5千ト |
| 1月15・16日 | 香港 | 輸送船7  | 3万9千ト  |
| 1月21日    | 台湾 | 輸送船4  | 6万6千ト  |
| 1月15・16日 | 香港 | 輸送船7  | 3万9千ト  |
| 1月21日    | 台湾 | 輸送船4  | 6万6千ト  |

タンカーの被害は戦争中最大で  
南方の石油輸送用は  
70万トから38万トへ一気に  
半減し二度と回復しなかつた

**日本の  
南方海上輸送は  
再建不能なまでに  
破壊された**



# これはアメリカの戦略のゴールだった

アメリカ軍は  
遂に太平洋から  
中国大陸まで辿り着き

日本と南方資源地帯の  
生命線を分断した

アジアを日本を中心とした  
ブロック経済化し  
欧米にのブロック経済に  
対抗するという

大東亜共栄圏  
構想

戦争目的の大前提を  
破綻させたのである

ルソン島の艦砲射撃が  
始まった1月6日  
『L86船団』が  
全滅した1月12日

戦争の終わりを  
考えるべきでは  
ないか

天皇は木戸内大臣に  
終戦の意志を漏らした

しかし大きな戦果をあげた  
特攻は正式な戦法となり

1月18日  
『最高戦争指導会議』は  
全軍特攻化を決定

翌19日 両総長によって  
『帝国陸海軍作戦計画大綱』  
として奏上され裁可を受けた

同じ18日  
台湾に渡った大西瀧治郎は  
残存機をかき集め  
すぐに神風特攻隊  
『新高隊』を編成した

神風特攻隊が出て  
万一戦争に負けたと  
しても日本は  
亡国にはならない

だが出ずに負けたら  
真の亡国となり  
日本は滅びるのだ

21日 『新高隊』は南シナ海を  
暴れまわる米機動部隊に突入し  
『タイコンデロガ』に2機が命中  
あわや沈没の大損害を与えて  
ハルゼーに一矢報いた

## 全軍特攻化

ここに  
一億日本国民（日本人7500万、朝鮮人2400万、台湾人600万）は  
全員が自殺攻撃で敵を道連れにし  
日本という『国体』を守ることが  
国の方針となった

テートの決断  
一億特効 終



どうも蛸壺屋です。

艦これシリーズ8冊目です。

前回までで残り11ヶ月分、次で完結かもなどと言ってましたが、何と3ヶ月分しか入りませんでした。しかし艦これ本的には水雷戦隊が壊滅する多号輸送作戦をしっかり描かないといけないのでこれくらいのページは必要かなと思います。しかし戦争後半は空襲のシーンばかりですね。

レイテ地上戦は硫黄島や沖縄に比べるとあまり詳しく取り上げられないか、せいぜい台湾沖航空戦の誤報で判断ミスをして無謀な戦いを、かなりの扱いです。今回調べて陸軍(大本営)としてはここに勝負を賭けてたんだと色々合点がいきました。

そういえば映画の『野火』(新しい方)で機関銃で撃たれる中を走り抜けるスプラッターシーンがありました。あれは米軍に分断された山中の日本軍がカンギポット山へ集まるためにオルモック街道を突っ切るシーンでしょうかね。

これで陸と海の決戦も終わりましたし金剛と不知火も沈んだので、次で多分終わりになると思います。あと6ヶ月分、ここまで来たからには最後までお付き合いいただければ嬉しいです。

ではまた次回お会いしましょう!

作画や情報の間違い修正専用ページを作りました。

『テートクの決断フォローページ』

<http://takotuboya.jp/teitoku/syuusei.html>

誌名 テートクの決断 一億特攻

発行者 蛸壺屋

発行日 2018年12月31日

印刷所 大陽出版

Scans by Super Shanko

ご意見ご感想は下記アドレスまで

URL : <http://takotuboya.jp>

E-Mail : [tk@takotuboya.jp](mailto:tk@takotuboya.jp)

## 登場艦娘

金剛 榛名 大和 長門  
信濃 隼鷹 雲龍 天城  
葛城 龍鳳 神威 那智  
熊野 青葉 妙高 高雄  
足柄 木曾 鬼怒 阿武隈  
能代 多摩 球磨 大淀  
卯月 浦波 時雨 潮  
霞 野分 長波 浜波  
早霜 清霜 朝霜 沖波  
浦風 浜風 磯風 雪風  
島風 不知火 まるゆ  
あきつ丸 呂500  
伊400 伊401 伊13 伊14

# テートクの決断 一億特攻

TAKOTUBOYA  
Adult Only

テートクの決断 昭和16年の敗戦 (1941. 7. 28~1941. 12. 8)  
テートクの決断 MIDWAY (1941. 12. 8~1942. 6. 7)  
テートクの決断 鉄底海峡 (1942. 6. 8~1943. 2. 7)  
テートクの決断 ラバウル1943 (1943. 2. 8~1943. 8. 25)  
テートクの決断 絶対国防圏 (1943. 8. 26~1943. 12. 14)  
テートクの決断 あ号作戦への道 (1943. 12. 15~1944. 6. 23)  
テートクの決断 レイテに散る (1944. 6. 24~1944. 10. 25)